

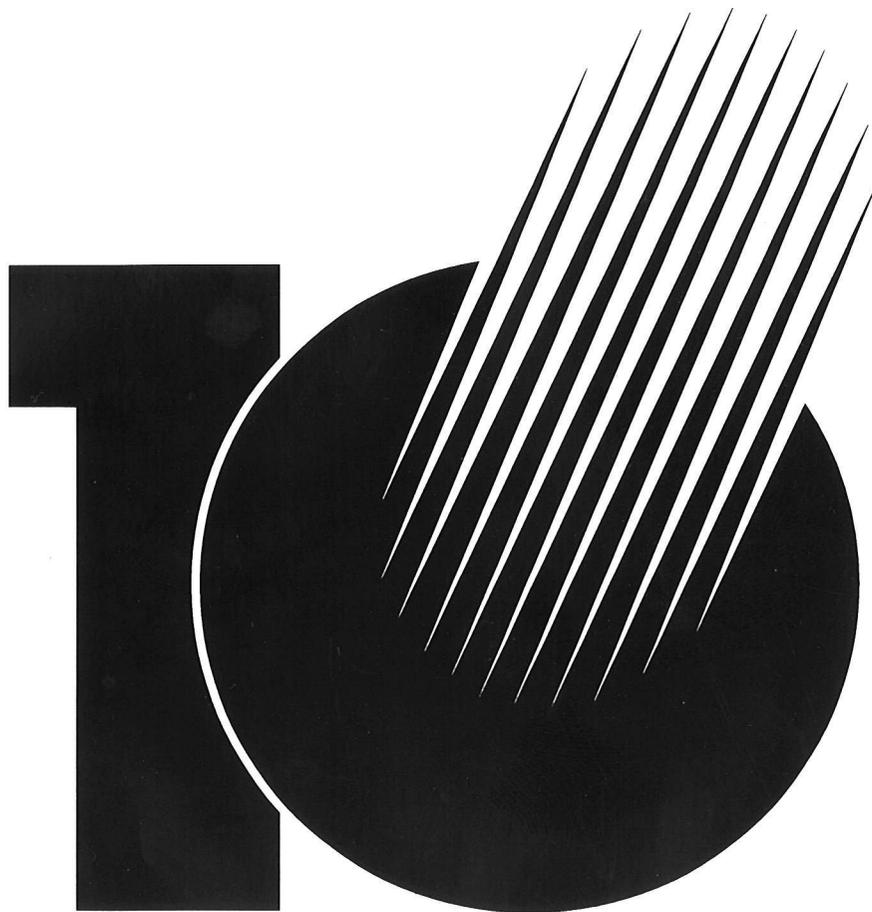
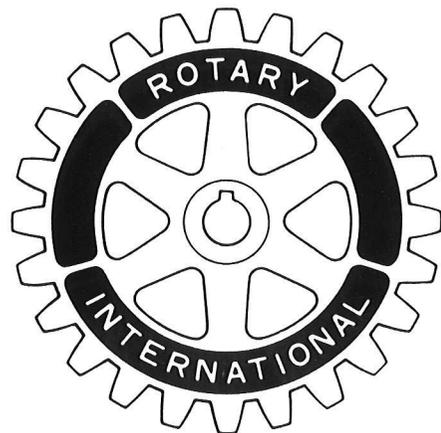
10周年記念誌

FUKUOKA NORTH ROTARY CLUB
1983-1993

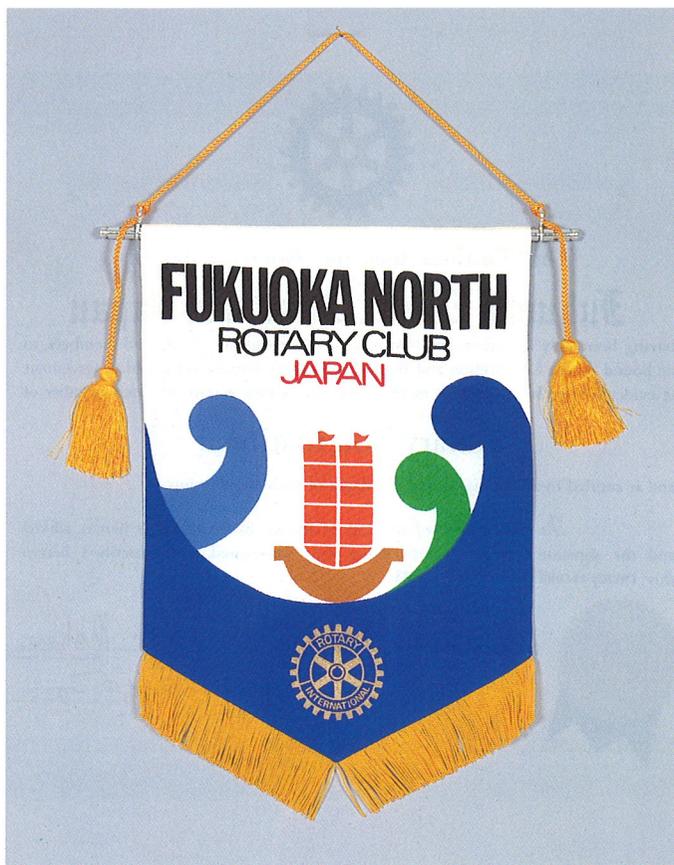


10周年記念誌

FUKUOKA NORTH ROTARY CLUB
1983-1993



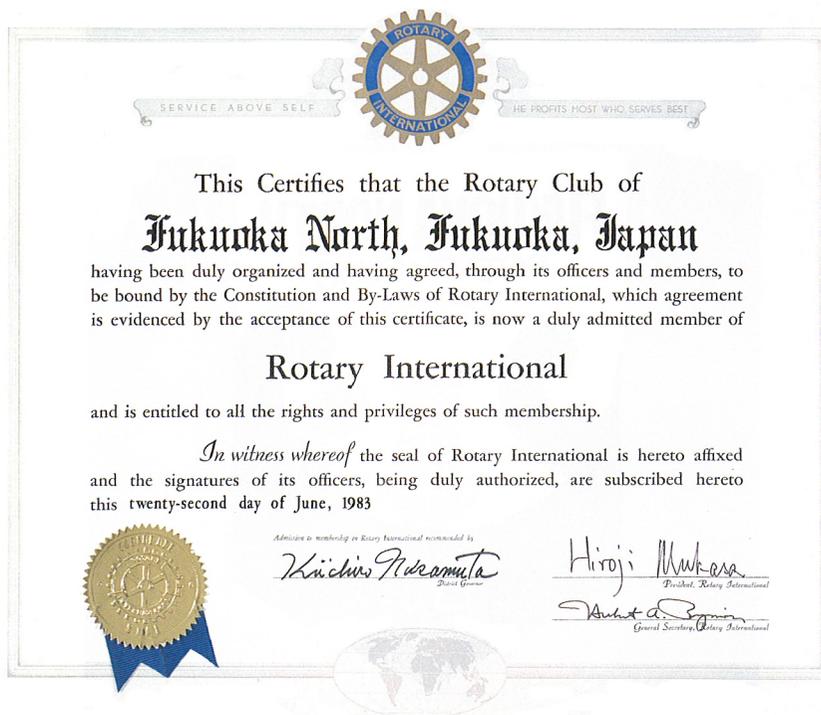
福岡北ロータリークラブ・バナー



このバナーは、玄界灘の波と、博多の貿易や、商業に、重要な役割を果たした遣唐船を表現したものです。古来から福岡は大陸との文化、経済のクロスロードとして発展してきました。福岡北ロータリークラブのバナーも、私達のなりわいをとおして、明日の福岡の発展に貢献できる精神（こころ）を継いでいこう、という意味を込めてみたものです。

（デザイン・平山喜丈会員）

認 証 状



福岡北ロータリークラブは正式に結成せられ、且つその役員および会員を通じ、国際ロータリーの定款並びに細則を遵奉することを誓約することは、本証書を受納することによって立証せられた。よってここに国際ロータリーの会員たることを正式に承認せられ、且つその会員としての権利と特典を享受するものであることを証明する。

その証しとして国際ロータリーの印章を捺し正規の権限を有するその役員がここに署名するものである。

1983年6月22日

R I 会長 向 笠 広 次
R I 事務総長 ハーバート・A・ピグマン
地区ガバナー 中 牟 田 喜 一 郎

姉妹クラブ協定書



福岡北部（日本）並びにボルドー北部（フランス）ロータリークラブの姉妹関係は、本日1986年9月29日に締結されたことを証す。

本姉妹関係は、奉仕精神に則り、世界中で様々な職業に従事する人々の間に友好関係を普及・維持し、国際相互理解・親善ならびに平和の推進に貢献するというロータリーの目的に添うものである。

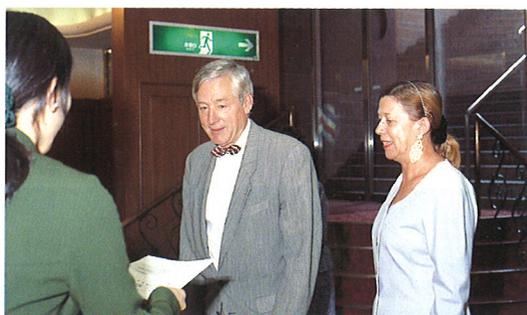
本姉妹関係締結に拠り、福岡北部並びにボルドー北部ロータリークラブは、各々の地域活動を報告し合い出来る限り頻繁に訪問し合い、メンバー相互間の友好関係を進展することを誓約する。

於 ボルドー市 1986年9月29日

(調印文書原文)

式典・祝宴スナップ

—1993. 6. 4—





ロータリークラブ創立10周年記念パーティー



祝宴



目 次

福岡北ロータリークラブバナー	3
認証状	4
姉妹クラブ協定書	5
式典・祝宴スナップ	6
ご挨拶	10
祝辞	11
御冥福をお祈り致します	14
10周年記念準備委員会名簿	15
創立10周年記念式典・講演・祝宴	16
記念講演	
“ロータリー・ネッサンスへの夢”	18
福岡北R.C.創立10周年記念事業について	23
福岡北ロータリークラブ10周年記念座談会	24
福岡北R.C.の事業とあゆみ	35
歴代役員	37
卓話の歴史	47
会員プロフィール	60

会長あいさつ



一つの節目として、その時に会う喜び、これもまた出会いとすれば、なんとも晴れがましく盛大な出会い——10周年記念式典であり、祝宴でございました。

しかも福岡市長代理として加藤助役、そして川村ガバナー、素晴らしいご講演をいただいた末永元R I理事などたくさんの皆さんに祝福されたひととき、ほんとうに全会員がともにかみしめた大きな喜びでありました。

本来、このような式典にさいしては、創立時のあれこれをしるのび、今日あることを皆さまに感謝申し上げるべきところですが、ここではどうしても、つい3ヶ月前に他界されました平野特別代表のことを、避けて通ることは出来ません。

当北クラブの理念である『手づくりクラブ』の提唱とその実践、また、その関連としてボーイスカウト福岡第14団の設立と育成、そして、この記念日に設置される福岡市立こども病院のビデオライブラリーなど、そのほとんどのルーツが平野さんにあります。

いずれにしましても、これまでは新家バスターガバナーとともに、このような偉大な先輩の庇護のもとで、安穩の毎日であったかもしれません。

しかし、その10年は終わりました。

会員数がピーク時の1割減というきびしい状況をふまえて、いまこそ、まさにリストラをしなければなりません。ときあたかも、次年度のR Iのテーマは『行動に信念を……信念は行動に……』であります。

10周年を契機として、つぎの20周年のために、いま一度『手づくりクラブ』の原点に立ち返り、信念をもって楽しく行動力にあふれた福岡北ロータリークラブの再構築に邁進してまいりたいと思います。

これからも、どうぞより一層のご指導ご協力を、よろしくお願い申し上げます。

福岡北ロータリークラブ会長 葉山 孝

祝 辞



福岡市長
桑原 敬一

本日、福岡北ロータリークラブにおかれましては、創立10周年記念式典をこのように盛大に挙行されますことに対しまして、心からお祝い申し上げます。

皆様方には、日頃から、その崇高なロータリー精神に基づき、社会福祉、青少年の健全育成をはじめ、明るい地域社会の実現に向け、種々の奉仕活動を実践しておられますことにつきまして、深く敬意を表する次第でございます。

福岡北ロータリークラブは、昭和58年6月の創立以来、歴代会長をはじめ、会員の皆様方の御熱心な御活動により、地域社会へ大きな貢献をされており、現在では会員数約70名を擁するクラブに発展され、御活躍いただいておりますことは、私ども福岡市民にとりまして、誠に心強い限りでございます。特に貴クラブは、「ひとを育てる」ということを活動の基本とされ、青少年の教育をはじめ、地域に根ざした幅広い奉仕活動を行っておられますことは、御同慶の念にたえません。

この度、創立10周年記念事業として、福岡

市立こども病院に「こどものビデオライブラリー」を寄贈されると伺っており、病気の子供達の大きな慰めになることと存じます。この場をお借りして、厚く御礼申し上げます。

福岡市では、来たるべき21世紀に向けて、「健康で思いやりのある人づくり・地域づくり」を市政の柱として、「健康都市ふくおか」の実現に向け、積極的に取り組んでいるところでございます。

また、平成7年には、世界の学生のスポーツの祭典「ユニバーシアード福岡大会」が福岡市で開催され、国内はもとより、世界約130の国・地域から、約6000人の選手・役員の皆様をお迎えすることになっております。

皆様方におかれましては、ユニバーシアード福岡大会を成功に導いていただくためにも、今後なお一層の力強い御支援・御協力を賜りますよう切にお願い申し上げます。

終わりに、福岡北ロータリークラブの今後ますますの御繁栄と、皆様方の御多幸を祈念いたしまして、お祝いの言葉といたします。

祝 辞



R I 第2700地区ガバナー
川村 謙二

福岡北ロータリークラブには、本日でたく創立10周年の記念式を迎えられましたことを、心からお慶び申し上げます。

第2700地区の地区史によりますと、当クラブは昭和58年、福岡城西ロータリークラブがスポンサークラブとなり、当時の中牟田喜一郎ガバナーなどのお世話で、6月3日に創立総会を開き、国際ロータリー加盟認証が6月22日、とハイスピードの誕生でありました。

当クラブがこの輝かしい10周年を迎えられましたことは、歴代会長・幹事並びに会員の皆様が、常にロータリーの綱領に示されています所の、奉仕の理想の実践に努められ、色々のご苦勞を重ねられ地域社会に貢献されたことによって、今日の成果があったことと深く敬意を表するものであります。

さて、昨年7月末、公式訪問で福岡北クラブに伺いましたときの印象は、今でも鮮明に記憶されています。創立の時より、クラブの簡素化、合理化、冗費節約型運営の「手づくりクラブ」をモットーに年輪を重ねられ、クラブの堅実な成長、合理化による財務の豊かさは、役員・委員長まかせてなく全員参加でなされたもので、この10年の節目を契機に、皆様が描かれた夢である、奉仕活動の充実が実践されるためのものであります。

すなわち、ボルドー北クラブとの交流、留学生との懇談会などの世界理解推進、RYLA委員会、青少年委員会の次代を担う青少年

たちへの情熱は、インターアクト並びにロータリーアクト設立への準備であり、社会奉仕活動はボランティアグループ「お便りの会」への支援を軸に、高齢化対策、環境問題などの北クラブ独自の事業推進へのステップでした。これらすべてのものが、地道ながらロータリーの本義を勉強理解され、手づくりの温かい楽しいクラブづくりを中心に、会員それぞれが、その職業に高い倫理観をもって、奉仕しておられるからだと存じます。

R I 会長ダクターマンのテーマである「まことの幸福は人助けから」の模範的な推進クラブとして、今後もバランスのとれた四大奉仕活動が充実されますことを期待しています。

それにしても、第10代故前田会長が高邁な理想と情熱をもってクラブ運営についての夢を語られたのは、今でも強烈に思い出されますし、その感動は永久に焼き付いて、頭より離れることはないと思います。どうか、世のため人のために尽くそうという、ロータリーの奉仕の心を、この10年目を節目として、大きく当地区のリーダークラブに発展されますよう、一層のご尽力を捧げられ、ロータリーを頌ち合って頂ければと存じます。

ここに謹んで本日の式典をお祝い申し上げ、今後のご発展と、会員各位のご健勝とご多幸をお祈り申し上げまして、私の祝辞といたします。

祝 辞



福岡城西ロータリークラブ
会長 後藤 照男

本日、めでたく創立10周年を迎えられ、私共、スポンサークラブとしてこんな喜ばしいことはありません。心からお祝いを申し上げます。

福岡北クラブの創立には、中牟田喜一郎パストガバナーの御指導のもと、福岡城西クラブから平野特別代表をはじめ、新家パストガバナーなど、6名が移籍され、キーメンバーとなって設立にあたりました。

1983年、福岡では11番目のクラブとしてめでたく認証を受けました。

50名のチャーターメンバーで発足された当初は、会員の増強をはじめ、色々な御苦勞があったと推察致します。

しかし会員の数は少なくとも、一切の無駄を省き、経費を節約し、徹底した簡素化、合理化をはかって、会員一人一人が、小さなことまで責任をもってクラブの運営にあたられ、節約された分を社会への奉仕に向けるなど、まことにユニークなクラブとして、今日まで成長をとげてこられました。

とりわけ、平野特別代表が生前に提唱されました「樹を育てることより人を育てよう」と、ボーイスカウト福岡第十四団の発足と、その育成援助にそそいだ青少年の奉仕活動こそは、まことに素晴らしいものがあります。

このように手造りのクラブを目指しながら、着々と実績をあげてこられた貴クラブは、歴代の会長、幹事を中心として、会員皆様が一

致結束して努力された賜ものであり、深い敬意と尊敬の念を表する次第であります。

それにしましても、この10年の間、熱い思いを傾けてこられた、平野特別代表や前田会長の姿は今はなく、何とも惜しまれてなりません。

これからは、今日の創立10周年記念式典を一つのステップとして、更に20周年に向けて、新たな決意のもと、益々充実発展されますよう、お祈り致しまして祝辞と致します。

本日は又、御丁寧な感謝状を頂きまして有難うございました。

御冥福をお祈り致します。

——この10年間に亡くなられた会員と御命日——



増田 耕
H. 1 . 11 . 27



広瀬哲男
H. 2 . 11 . 24



田中義明
H. 3 . 10 . 14



前田三男
H. 5 . 2 . 23



平野桂樹
H. 5 . 3 . 7

10周年記念準備委員会名簿

◇準備委員長　木曾信重　　◇副委員長　葉山　孝

委員会名	委員長	副委員長	委員
1. 総務	荒木	大塚(嘉)	高尾、森本、大塚(弘)
会計	播本	長尾	
救護	重松	武元	
2. 式典	新家(総括)	木曾	
招待 祝辞依頼	有田	辻	平野(比)、中西、貞弘
登録	小副川	久保田	
受付	江藤	三島	馬場、藤原、石井、久米、 溝部、重岡、森山、山田
司会進行	篠崎	岩崎	春田
表彰	福地	矢野(正)	宮崎、中村(智)
追悼	溝部	中村(正)	玉川
記念講演	亀崎	渡辺	森、矢野(羊)
3. 会場設営	勝浦	荒牧	楨山、鷺澤
4. 祝宴	神代	穂吉	平山、三嶋、光安、村上、 上畠
5. 記念誌	宮丸	香月	間、長府、藤谷、梶原、長田
6. 記念事業	本田	中野	

創立10周年記念 式典・講演・祝宴

日 時	1993年 6 月 4 日 (金)	
受 付	15 : 40	～ 16 : 00
式 典	16 : 10	～ 17 : 00
記念講演	17 : 10	～ 18 : 20
祝 宴	18 : 30	～ 20 : 00

会 場 セントラルホテルフクオカ

式典 珊瑚の間(B1F)
祝宴 ダイヤモンドの間(3F)

スケッチ・その日の4時間

九州地方にも梅雨入り宣言が行われ、天候が心配されたが、福岡北ロータリークラブ創立10周年記念式典当日はお天気にも恵まれ、式典や祝宴は以下の通り、とどこおりなく行われた。

平成5年(1993)6月4日(金)、快晴とはいえないが梅雨中としてはところどころ、青空も見える好天気。ひとまず、ほっと胸をなでおろす。

15時40分、受け付け開始。まず、会員が次々に登録開始。

そのうち、各来賓もご来駕。次第に会場は熱気をおびてくる。福岡北ロータリークラブ会員全員がこの日のために準備を進めてきた。その「10周年記念式典」はもうすぐ開幕なのだ…。

16時10分、定刻たがえず点鐘、式典は篠崎会員の司会・進行で開始された。会場はセントラルホテル地階、珊瑚の間である。



パストガバナー、新家忠男会員の開会の言葉によって幕が開かれる。

次いで、木曾信重・式典実行委員長の歓迎の言葉。森本茂雄ソングリーダーの指揮で君が代と奉仕の理想の斉唱。

さらに物故会員の追悼である。福岡北ロータリ

ークラブは特別代表の平野桂樹シニア会員、前田三男前会長、そして田中義明第4代会長などを失っている。その他、この10年間に増田耕会員と広瀬哲男会員が故人となった。溝部浩三シニア会員の追悼式辞でその大きな遺徳を偲び、しめやかにひとときわ永い黙禱を捧げる。

次に葉山孝会長による来賓及び出席者紹介。そして会長挨拶。

来賓挨拶はまず福岡市長・桑原敬一氏の挨拶文を、加藤竺子助役が爽やかな声で代読。

次に川村謙二ガバナーの祝辞。福岡北ロータリークラブが会員の手づくりによって進められてきたことを称えて下さる。

記念事業委員長の本田恵会員が事業報告を行い、関係者による贈呈式、表彰式などへ移る。その内容は次のとおり。

- (1)福岡こども病院へビデオライブラリー贈呈。
- (2)ボーイスカウトへ記念品（野外活動用テント）贈呈。
- (3)故・平野桂樹夫人美代子さんに対するボーイスカウト団からの感謝状贈呈。
- (4)ボーイスカウト福岡第14団委員長、篠島晋氏から北クラブへ感謝状贈呈。
- (5)ボーイスカウト・ローバー隊による返礼の弥栄。
- (6)故・平野桂樹夫人美代子さんへ北ロータリークラブから感謝状、記念品贈呈。
- (7)スポンサークラブ・福岡城西ロータリークラブへ感謝状贈呈。
- (8)10年皆出席者表彰。

続いて高尾勝幹事による祝電披露。有田昭穂副会長の閉会の言葉で式典は全てとどこおりに終了。予定の時間を10分ほど越えて、17時10分、記念式典は閉会した。

10分の休憩時間を経て、記念講演である。

亀崎重則会員の司会で開始は17時20分。元R・I理事の末永直行氏が講師である。演題は「ロータリー・ルネッサンスへの夢」。ロータリークラブの会員をオーケストラのメンバーにたとえ、会員

一人一人が立派なソリストで、かつオーケストラの構成員でなければロータリークラブはうまくオーケストレーションがとれないと、絶妙の講演を披露された。末永氏は予定の18時20分にきっかり講演を終えられ、見事な時間管理の腕も見せられた。

18時30分、会場をダイヤモンドの間に変えて祝宴開始。

神代啓司祝宴担当委員長の司会で祝宴がスタート。荒木勉総務委員長の開会のことばで華やかな夜のとばりが開かれた。

福岡城西ロータリークラブ・後藤照男会長の来賓祝辞のあと、福岡ムジカークライスの皆さんの柔らかな弦楽四重奏曲を聴き、川村氏、末永氏、葉山会長、木曾シニア会員、ミッシェル・ルーヨ名誉会員らによって鏡割り。そして、新家パストガバナーの音頭取りで乾杯、歓談に移った。途中、おなじみの森部貴子さんの美しい独唱に酔い、歓談の雰囲気は大いに盛り上がり、閉会予定の20時前に、全員手をつないで、「手につないで」を合唱。大塚元会長の「今日、手をつなぎあったその手のぬくもりを忘れないで新しい十年へ進んでいこう」という言葉で、半日にわたる熱い10周年記念式典の幕が下りた。福岡北ロータリークラブを永きにわたって支えてくださった方々、そして会員諸兄…本当に有難うございました。



“ロータリールネッサンスへの夢”

元R I理事・パストガバナー 末永直行

本日は貴クラブの創立10周年にお招きを受け、お話をさせていただくことになり、大変光栄に存じます。まずは創立10周年まことにおめでとうございます。創立から今日まで力を盡くしてこられた、多くの皆様方に心からの敬意を表する次第でございます。

10年という歳月を物事が誕生し、成長してゆく過程の中で位置づけますと、実は最初の10年こそがもっとも重要な単位であり、その歳月の過ぎ方いかんが、それ以降の運命を決するとさえいってよいのではないかと考えられます。

このことは人間の成長過程に於ける変化、成熟の期間でも明らかでございます。私は、ささやかな音楽学院と附属幼稚園を経営いたしておりますが、音楽に関して申しますと、幼児期の音感教育や、ピアノ、バイオリンなど器楽のレッスンに於ける、幼少年期の上達過程での10年の意味は大変なものでございます。これは、スポーツ各分野でも同様のことと存じます。

そうした意味をこめて、私は皆さまのクラブの10周年をことさら感銘深くお祝い申し上げたいのでございます。とくに私に印象深いものがございまして、貴クラブが誕生した1983年6月3日という日は、不肖私がR I理事を拝命し、国際協議会に出ていた日であり、私の所属する地区に、新クラブが誕生したということを知って、当時の向笠R I会長はじめ全理事が拍手で祝福してくれた喜びを、きのうのことのようにはっきり覚えております。

さて「10年ひとむかし」と申しますが、10年前、1983年は、中曽根総理と、レーガン大



統領がロン、ヤス、の仲で日米運命共同体を強調、東京ディズニーランドがスタート、又、福岡では奥田革新県政が誕生した年でした。その後10年間、政治、経済、衣食、文化すべての事象が有為轉變、振り返って感慨一しおの思いでございます。当然、この世界に生きている人間の考え方、意識も大きく変化しました。

この内外の激動の期間、人びとの意識には、どんな変化がもたらされたのでしょうか。NHKが行なっている“日本人の意識”調査をみても、その変化ははっきり読みとることができます。人々の生活目標、生き方の4つのパターンについて、73年の第1回調査から88年の第4回調査の15年間で、「身近な人たちと愛し合い、なごやかに暮らす」という“愛”指向が31%から39%へ8%も増加し、ついで「その日その日を自由に楽しくくらす」の“快”指向が21%から25%に。それに対して“利”指向が33%から29%へ。そして“正”指向は

14%から7%へと半減し、4つの価値観の中で、最小数値に転落いたしております。この4つの生き方の価値観のうち“愛”指向と“快”指向は“現在中心”、“正”指向と“利”指向は、“未来中心”とみることができですが、そうすると、この15年間で、“現在中心派”が52%から64%へと増加し、“未来中心派”が47%から36%へと減少したことになります。調査に参加した学者たちは、この変化は生活の豊かさに関係があるのではないかとみております。そして経済の発展にともない、豊かであることが当然のことになった現在、社会正義を求めたり、長期的な見通しの中で生活設計を立てる、という生き方への共感が大きく減少したのは当然であろう、と見ております。

仕事中心の“働きバチ”から、ゆとりを大切に、余暇を楽しむ生活への価値観の転換は、好ましい変化ではあるのですが、これが同時に、政治や社会への無関心度を増やすことにつながることにするとしたら、やはり気になります。

若者、とくに高学歴層の政治離れについて、青少年奉仕、あるいはローターアクト、インターアクトの領域で対応を考えるべき時期にきているように思うのでございます。

さて、人びとの意識の変化は「仕事と余暇」の考え方にもはっきりあらわれております。調査ではこの10年間で、仕事指向は44%から31%に、余暇指向は29%から34%に、仕事余暇両立指向が25%から32%。これで見ると、現在の日本人は、けっして欧米から批判される、働き蜂ではありませんし、かといって、古い明治、大正人が、将来を悲観する必要もないのではないかとと思うのでございます。とくに男性のみの数値で見ますと、仕事指向が38%、仕事、余暇両立が34%、余暇指向は27%と三項目の中で、もっとも低い数値となり、

働きバチでも、又、ナマケ者でもない、均衡のとれた勤労観が定着しつつあるように見えるのでございます。

さて、この調査の中から、もう一つのデータをご紹介します。

それは宗教、それもいわゆる「現世的利益的宗教」に関するものです。こういった宗教の存在は、さき頃の山崎浩子さんや桜田淳子さんといった、著名なスポーツ選手や俳優が話題を振りまいたことで、テレビや週刊誌で報ぜられました。旧来のいわば自己修養的宗教行動ではない「現世的利益的宗教行動」だけを行っている人が、この15年間、4回の調査で31、37、38、48%と確実に増加しており、特に25～35才の若い世代が多いということです。ただし、この中には祈願、お守り、お札を信じている、という人の数も含まれておりますが、若者の間に、とくに角信者が増えている点が注目され、年令的には25才が59%と多く、次いで35才が53%、21才が51%と50%をこえ、あと世代が高くなるほど減ってゆき35才は40%、45才は34%、65才で26%という具合です。かつては人々を宗教に向かわせる三つの大きな悩みは、貧乏、病気、争い、だったといわれますが、現在、こうした悩みとは関係のなさそうな若者が、どうしてこうした現世宗教に走るのか。このことについて学者たちは次のように解説しております。即ち「経済合理性、効率性を最優先に考え、突っ走ってきた70年代から80年代の日本の社会は受験戦争、校内暴力やいじめ、家庭崩壊、非行など、若者を傷つける多くの歪みを生じさせている。同時に現代は生活の中に物だけがあふれている。精神的な充足への欲求を強くもつ若者たちは、不安やさびしさをいやすために現世宗教に走る、そして仲間から仲間へとそれが急速に伝播するのではないかと。難しい問題ですが、この風潮もこの10年の間に顕

記念講演

在化してきた現象です。

元国土庁次官下河辺淳さんによれば「近世
いらい日本には二つの大革命があって、一つ
は明治維新で、開国を迫られた日本人は懸命
に欧米の文物をとり入れ、彼らの社会制度ば
かりかライフスタイルまで模倣して、富国強
兵を旗印に軍事大国への道をひた走った。第
二の革命は敗戦と米国の一時的な日本占領で
ある。焦土と化した国土の中であって、まず
どうやって家族を餓死させないか。ヤミ市に
は物がある。ヤミ市で物が買える金をどうや
って手に入れるか。ただその一念で懸命に走
りはじめた。この場合のお手本はマッカーサ
ー司令部でつくられた占領政策でした。二つ
の革命とも、お手本は外国にあった。しかし
大きな違いは、明治維新をなしとげた日本人
には志があり、勇気と情熱があった。

敗戦後の日本人は、虚脱感からしばし立ち
直れないでいた。頼りになるのは、結局お金
だけ。そうして経済大国への道をひた走った。
その競争では、いつの間にかトップに立って
いた。」そして、下河辺さんは、それに対比し
て近世以降の世界の潮流について次のように
解釈されております。「西欧にとって、近世の
最大の革命といえば産業革命だろう。科学技
術の進歩によって西欧各国の産業、工業社会
は著しい発展を遂げたが、今、見直しが始ま
っている。世界は、今や新しいルネッサンス
を必要としており、その方途を必死に求めは
じめている、といてよい。そして、それは、
経済価値偏重の経済大国日本がぶつかってい
る壁と多くの面で似ている。ともに「豊かな
人間性、精神性」を失いつつあるところに根
本的な要因がある。」と述べております。同感
するところが多いのでご紹介いたしました。

ところで企業や組織にとって、この10年間
とくに目立ったことは、それぞれにC Iに挑
まれ、メセナやフィランソロピーへの傾斜を

強められたことではないでしょうか。私もご
くさやかな財団法人をつくってメセナのま
ねごとのようなことをはじめましたが、私事
ですが、もしロータリーの会員でなかったら、
そのような生き方は思い立たなかったかも知
れません。経済大国日本も、この面ではまだ
まだ途上国です。国の文化予算の比率からみ
ると、大ざっぱに見て、フランスやアメリカ
の1/30、計算の仕方によっては1/50とい
ったありさまです。しかもメセナ活動に対
しても税金がかかります。フランスやアメリカ
では、メセナ活動は売り上げおよび利益から
控除され、一般管理費と同じ取り扱いです。
とくにフランスでうらやましいのは、過去30
年間、文化政策は一貫しており、ポンピド
ー大統領以来の歴代大統領は、その任期中に必
ず文化的な偉大なプロジェクトを推進してい
ることです。その代表的な例がポンピド
ーセンターであり、オルセー美術館であり、グラ
ン・ルーブルであり、バスチーユのオペラ座
です。国全体がメセナに大きく傾斜してい
るのです。フランスは福岡に九州日仏学館を設
置しており、ルーヨ前館長は貴クラブの会員
ですが、経済的にはきびしい国家財政の中か
ら、こうした学館の運営維持に努めておられ
る姿は、いかにも文化国家としての誇りを感じ
させ、うらやましく感じます。

企業のメセナ活動の進展は、ロータリーの
奉仕活動とも、こんごいよいよ深い関連をも
つことになることは確かであり、相互に協力
すべき機会も増えてゆくように思われますの
で、とくに申し上げたのでございます。メセ
ナやフィランソロピーとは別に従業員に「ボ
ランティア休暇」をあたえて自由に、自発的
に地域社会でボランティア活動をさせるとい
う方式をとり入れている企業も出てまいりま
した。平成3年度の厚生白書も「広がりゆく
福祉の担い手たち」というテーマを掲げて福

祉分野への市民参加を強く訴えております。現在活動中のボランティアは400万人ですが、20年後には1,200万人が必要とされております。また文部省では偏差値教育からの脱皮をはかる意味からも、高校入試の判定の尺度の中に「ボランティア活動」の実践を取り入れようとしております。全公立高校が定員の30%は推薦入試とする宮崎県など「社会的ボランティア活動に、積極的に参加し、顕著な活動が認められるもの」という項目を推薦条件の中に掲げている高校もあるようです。

メセナといい、ボランティアといい、私たちのロータリーときわめて近いところで、一斉に社会の風潮が高まりつつあることを、しっかり認識し、対応しなくてはならない時期にきている、と思われまふ。ロータリーは長い歴史と実績と、世界的規模をもつ、誇るべき組織には違いないのですが、各方面で多様に展開されはじめた、メセナやボランティアの中で輪郭がぼやけ、存在価値自体が揺らぎかねないのではないかと、自戒しているのをごまします。

最近、金子郁容という若い社会学者が書いた、岩波新書の「ボランティア」という本が、地味な内容にもかかわらず、静かなベストセラーになっております。著者はその中で、「ボランティアという、困っている人を助けてあげることだ、と思っている人が多いのではないだろうか。ところが、実際にボランティアに楽しさを見出した人は、皆“助けられているのは、むしろ私の方だ”という感想をもつものだ。又、ボランティアをしていると、時には自分のはじめた、小さなことがきっかけとなって、思いもかけぬ展開が起り、あとで振り返ってみると、自分1人では、とても出来なかったことが可能になっていることを発見する」と、指摘してあります。そして私はこのことばに大いに鼓舞されました。

そして同時に、私は思わず、シカゴで事務所を開いたばかりの青年弁護士、あのポール・ハリスのことを思い出します。シカゴは退廃をきわめ、まさに人間疎外の街でした。そんな環境の中で孤独なポールは、まず真に心を許せる友を求め、その友情のあたたかい絆をよりどころにして、地域社会への奉仕の灯をともしたのでした。ポール青年こそ、人を助けることが、そのまま自分を救うことに通ずることを、誰よりもよく知っていた人に違いない、と思えてならないのをごまします。

ロータリークラブの創立から、90年近い歳月が流れておりますが、たった4人ではじまったひとつのクラブは、今日では187ヶ国に、26,261のクラブがあり、1,166,454人の会員を擁するまでに発展いたしました。世界も社会も大きく変化しております。ポールは「私たちは、けっして自己満足におちいるべきではないし、私たちの思想は硬化してはならない。ロータリーは、時代とともに変革させるべきものなのだ」と申しております。組織が急速に拡大するとともに、ロータリーの奉仕の形に、大きな変化がございました。

設立後間もなく起った、個人奉仕か集団奉仕か、という議論についての、有名な「決議23~34」や、77~78年理事会採択の3H運動の展開、87~88年度採択の「職業奉仕における新方針」などをめぐっての、この古い基本命題の論議については、御承知の通りですが、私は、もうその是非を問う時期はすぎた、と見ております。つまり今日では、ともにロータリーの奉仕にとって、必要な奉仕の形になっている、と思うのをごまします。現に3Hプログラムは、偉大な成果を生んでおりますし、財団奨学金制度、研究グループ交換も、すっかり定着しております。御承知の通り故・平野特別代表はポリオプラス活動の地区委員長に、連続五期就任されて大きな実績を

記念講演

残されました。新家パストガバナーは、当地区にはじめて、ライラを創設された功労者でございます。

これだけロータリーの組織が全世界に展開され、そして奉仕のニーズが多様にかつ、大きくなった世界では、個人奉仕の積み重ねだけでは、対応できない状況になってまいりました。しかし、かといって、かつていわれたように「個人の鉄砲の時代ではない、集団の大砲の時代だ」というような、集団奉仕の効果ばかりを偏重する考えには、私は大反対です。

たまたま、私の職業分類が音楽ということになっておりますので、あえて、わが田に水を引かせていただきます。ロータリアンを、みんな音楽家だと考えてみましょう。職業が違いうように、演奏する楽器は皆違います。いろいろな弦楽器、木管、金管そして多くの打楽器、と皆さんの一人一人が、それぞれの楽器の演奏者なのでございます。そして、ソリストの皆さんは、曲によってはデュエット、トリオ、クワルテット、場合によっては、オーケストラのメンバーになります。しかし、室内楽やオーケストラ、という楽器はないのです。そして又、それぞれが、立派な演奏能力をもたなければ、けっしてよい合奏はできません。すべては、参加する個々の演奏家の技倆が基となるのでございます。私が、ロータリーの原点を大切にしつつ、と申し上げたのは、そのことでございます。集団にたよって自分一人ぐらい弾かなくても、というメンバーがおりますと、それだけクラブのハーモニーは弱くなります。場合によっては何一つ音が聞こえなくなってしまう場合だって出てきます。皆さんの一人一人が音を出す、それも立派な音を出す。それが3Hプログラムのような大シンフォニーのハーモニーを生むのでございます。どうか個人奉仕か集団奉仕か、

を鉄砲や大砲に例えないで、ソロでプレイするのか、室内楽、あるいはオーケストラに参加するのか、という区別で考えていただきたいのでございます。

5年前のロイス・アビイ会長は「ロータリークラブでは80%の会員が眠っていて、20%の会員でクラブを支えている」と申しました。そうだとしたら、とても、よいシンフォニーを聞くことはできません。冒頭で申し上げましたように、貴クラブは、まだ初心を忘れず、しかも10年選手を中心に、編成されたオーケストラでございます。やや小型な編成ですが、すばらしい音色を響かせることで、つとに有名であります。しかも、地区内でもっとも安い入場料、つまり、メーキャップ代で聞かせて下さることで、演奏会場は常に超満員である、とうかがっております。いささか冗談めいたいい方になってしまいましたが、まじめに貴クラブがこの10年、という記念すべきエポックを契機に、新しい世紀に向けて“ロータリー・ルネッサンス”のための名演奏をお聞かせくださることを、心から祈念いたしました。お祝いのことばといたしたいと思います。

(一部要約させて頂きました)

福岡北R.C.創立10周年記念事業について

記念事業委員長 本田 恵

「ひとを育てる」

「樹を育てるより、人を育てよう。」

当、福岡北ロータリークラブ発足時の平野桂樹特別代表のお言葉です。

新クラブの結成記念事業として何を？。いろいろ検討されました。記念植樹も有力案の一つでした。昭和44年に開設された「油山市民の森」も整備途上にあり、「天神緑地」も大きな話題の一つになっていた頃です。若木を植樹し、この若木が、根をはり、枝をのびし、葉を繁らせるように、新しいクラブも成長していこう。確かに、新クラブの発足にふさわしい記念事業であるといえましょう。地球の環境保全もとりざたされ始めた時代です。時宜を得た、話題に富む事業には違いありません。しかし、「何十本、何百本もの木を育てることは、本当に立派なことであろう。だが、何人かの子供が健やかに育つことは、もっともっと大きな社会の財産になるのではなかろうか」「子供達が健やかに育ち、社会のため、人のために役立つ成人になれば、これに優る成果はない。地球に優しい1人の人間が育つことは、何万本の植樹にも優る、地球への優しさになるでしょう」「樹を育てるより、人を育てよう」

平野特別代表のこの熱い思いが、日本ボーイスカウト福岡第14団の発足と育成につながったのです。当時のカブ隊の坊やは、今は立派な大学生、社会人として巣立ってまいりました。

当クラブには新家忠男PGもおられます。ご承知のように、新家PGは、ガバナー時代に旧270地区に、初めてRYLAを創設されたロータリアンです。

本クラブは、このお二人を核に発足した、手造りクラブなのです。本クラブの底流には「ひとを育てる」ことへの意欲と努力が、滔々と流れているのです。

創立10周年記念事業としても、当然のことながら、ボーイスカウト福岡第14団の育成援助をと考え、御希望に沿ったお役に立つものとして「野外活動用テント一式」を贈りました。また、難病と闘う子供達のQOLの向上と、1日も早い快復を願って、福岡市立こども病院に「こどものビデオライブラリー」を寄贈致しました。加えて、若人の健全育成を目的とした継続的事業として、創立10周年を契機に、育成基金の創設を検討することになりました。

「ひとを育てる」ためには、自分自身が育っていきなくてはなりません。現在の私共自身は、育った人とはいえないかもしれません。ひとを育てることで、自分も育たなくてはなりません。こうした意味でも、北ロータリークラブは「ひとを育てていくクラブ」であり続けたいと念じています。

福岡北ロータリークラブ10周年記念座談会



福岡北ロータリークラブ創立10周年を迎えるにあたって、創立に尽力した特別代表やパストガバナー、歴代会長、歴代幹事などにご参集頂き座談会を開いて、それぞれの思い出を語って頂いた。

全員にお集まり頂きたかったのだが、すでに物故された会長や退会をされた幹事もあり、加えて当日よんどころない所用のために出席ができない方々もあって、出席人数は司会者を含めて7人になってしまった。平成4年10月23日に開催した。

出席者は次の通りである。

平野桂樹（特別代表）

新家忠男（シニア、パストガバナー）

大塚嘉博（第6代会長、1989～90）

前田三男

（第10代会長、1992～在任中没）

上田謙太郎（第2代幹事）

灰田洋一（第4代幹事）

司会・葉山 孝（第10代副会長から第10代会長に就任）

なお、本座談会開催後、前田会長と平野シニア会員が死去され、さらに上田会員、灰田会員が退会された。福岡北ロータリークラブの歴史にも歳月の流れを感じ、万感の思いを禁じ得ない。



福岡北ロータリークラブ・ 誕生のいきさつ

- 司会** 皆さん、お忙しいところをどうも。
まず、福岡北ロータリークラブ創設の経緯を、特別代表でありました平野先生より伺いたいたんですが。
- 平野** 福岡地区に新しいクラブを作ろうという動きは、中牟田さんがガバナーであった、昭和56、7年頃から起こったんです。あの頃拡大カウンセラーというのがありまして、それを私がやっておりました。そういう背景の中で、中央の委員会あたりで、福岡地区に新しいクラブを作るならどうしたらいいかということが論じられました。

そこで、人口とロータリークラブの会員の比率などから、福岡地区が一番最適だということになりまして、かねてからいろいろな資料等を提出していた私に、ガバナーの中牟田喜一郎さんが、「それでは平野さん、あなたが一つ、特別代表になって新しいクラブを作ってくれ」という展開になりました。

そして1982年11月20日、中牟田さんから、「貴殿を福岡市及びその周辺地区に新クラブを結成するための特別代表に委嘱します」という辞令を貰ったんです。

さて新しいクラブを設立するとなると、私は福岡城西ロータリークラブの会員だから、城西ロータリークラブをスポンサークラブにしなければならぬ。とすれば、城西ロ



ロータリークラブの許可を得ないといけない。当時、向井先生という方が会長でしたが、まず、城西ロータリークラブに「新ロータリークラブの創立に関する合意書」を頂くよう、お願いしたんです。その頃、城西ロータリークラブは最高的人数で、114人ぐらいのクラブでした。会員数で南クラブに追い付き、追い越せと頑張っていた頃でしたから、ここで新しいクラブを作って会員数が減るのはまずいんじゃないかと、城西ロータリークラブの理事会の中で反対意見が出たものです。

しかし、いろいろな文章を見ていましたら、1983年から84年度迄の会長である、ウィリアム・E・スケルトンという方が、新会員を増やし、新クラブのスポンサークラブになるようにと強調しておられるのですね。その文章をよりどころに、城西ロータリークラブの理事会で「会員を増やすのは新しいクラブを作るのが一番いいのだ」と申し上げると、理事会も、「では認めよう」ということになったのです。

ところをご存じのように、城西ロータリークラブのテリトリーは、中央ロータリークラブのテリトリーでもあるわけです。そこで、中央ロータリークラブからも合意書をいただくことになりました。

この中央ロータリークラブは、新家さんが特別代表として作られたロータリークラブ

でしたから、新ロータリークラブの作り方のコツを新家さんから習って、中央ロータリークラブを下敷きにして、新クラブの結成を進めていったものです。

他にも多少の問題はありました。例えば福岡クラブは、福岡全市内が自分のテリトリーだという意識がありますから、同クラブの会員の中には、福岡クラブの合意書も必要じゃないかと考えている人もあるようでした。

しかし、福岡ロータリークラブには中牟田さんがおられましたから、この問題は中牟田さんが取りまとめて下さいました。

さて新しいクラブを作るとなると、活動の中心となるキーマンを作る必要があるので、いろいろ検討を進めたのですが、城西ロータリークラブの中で6人位、一緒に新クラブに移ってもいいという方が出て参りました。その方を中心にして、福岡北ロータリークラブというようなものを作ったら…という気持ちが固まりました。

そして、せっかく新しいクラブを作るなら、従来のクラブにない特徴を出そうと言うことになりました。

ここに新家さんもおられますが、私達は当時、ロータリークラブが少し贅沢になり過ぎていてのではないか、という感じを持っていました。

例えば会社づとめの方が定年で会社を辞めて行かれますと、みんなロータリークラブを辞めてしまう。ロータリークラブにとって働き盛りの方が辞めてしまうのも、ロータリークラブの経費が大変だから…という話を聞きまして、それではおかしいではないかと思いました。

そこで一つ、質素で経費のかからない、しかし立派なロータリークラブを作ろうじゃないかと思ったわけです。

これは城西ロータリークラブからこちらへ移った方々すべてのお気持ちでした。

こうして福岡北ロータリークラブが生まれ

たわけですが、クラブの運営が始まってみるとやはり、例会や他のクラブとの付き合いなどにおいて、あまり貧乏たらしいクラブというのもどうかという不安もありまして、段々、経費もかさむようになりましてけど、発足当時の趣旨は、もう少し簡素化したロータリークラブを作ろうというのが我々の目標でした。

手づくりのクラブをめざして

司会 大塚さんはいかがですか？

大塚 私もチャーターメンバーで入れて頂いたんですが、新しい中身の個性を持ったクラブが生まれたということは、メンバーにとって感激でしたね。

安く運営しようという簡素化の理念は、浮いたお金を活動を充実させるために使おうという、「正味活動主義」ともいうべきもので、他のクラブに新鮮な印象を与えたんじゃないかと思います。

食事一つとりましても、ナイフ・アンド・フォークではなくて箸を使う食事で、いわば内容主義を反映していて、充実感をもって食事させて頂いております。メンバーにも大変良いインパクトを与えたんじゃないでしょうか。

司会 木曾さんが会長時代の幹事でいらっしゃる上田さん。当時の思い出話を一つ。

上田 私は最初、ロータリークラブとは何か分からずじまいに入ったのですが、最初の年の副幹事、2年目に幹事を仰せつかったんです。

この福岡北ロータリークラブは最初、事務局がなかったものですから、新入会員や退会者が出るたびに、R・Iから来た英文を、辞書を片手に翻訳するなど学生時代に返ったようでした。また、仕事途中にポケットベルが鳴りまして、「来週、例会変更のクラブはないか」など、いろんな電話がかかっ

てきたものです。そこで、「事務局がないと大変だなあ。しかし、仰せつかった以上、何としてもやり遂げねば」ということで、やってきました。

事務局がないと、会長の会社の事務員さんなどを使うことになり、何人かの社員にご迷惑をおかけすることになります。それで困惑することもありましたが、平野先生や新家パストガバナーの最初の設立趣旨である、贅沢でない質素なロータリークラブという考え方には、今も賛同致しております。

平野 事務局を置くか置かないについては、私達も考えたんですよ。しかし、事務局を置かないと幹事がロータリークラブの仕事をよく覚えるんです。ロータリークラブに関しては精通するようになる。しかも経費の節減にもなるし（笑い）。

最初の年は、事務局は私のところにありましたが、2年目の上田さんの時は大変だったでしょうね。

それにもっと困ったことは、事務局がないと会長になり手が無い。いろいろな人に会長を断られて、どうにかしなければなるまいということになったんですよ。

私達は昔、例会の月報や週報、統計なんか自分で作ったものでした。今は、もうそういう時代ではなくなりましたが。

福岡北ロータリークラブも現在はいい事務局ができましたね。

司会 同じように事務局なしでやってこられた灰田さん。幹事の思い出をどうぞ。

灰田 ただ一言でいえば、やはり、大変だったですね。私が幹事やらせて頂いた頃は景気があまりよくなって、本来の仕事が結構大変だった上に、ロータリークラブの仕事です。最初は、片手間でもやれるだろうとタカをくくっていたのですが、始めてみるととてもじゃないが片手間ですまん訳です。うちの事務所は女子社員がいないもので、細かな仕事をやって貰えない。また今、上田さんがおっしゃっていたように、英文の翻訳

にも困りました。工場から若い社員を呼んで来て、これ翻訳しとけ…なんて、そういうことやっていましたけど。半分ノイローゼ気味でした。

司会 一番新しい会長である前田さんは、いかがですか。

前田 私はチャーターメンバーになるいきさつがちょっと変わっておりまして、実は、病気をしまして平野先生に命を助けて頂いて、退院してみたら、今度新しいクラブができると…。じゃあ、ということで平野先生のところへ行って、いろんな配慮を頂きながら現在までやって来たわけです。

ところで、事務局の問題ですけど、事務局の井上さんにいつまでもやって貰うという訳にもいきまいし、私もいろんな資料をひっくり返して見ました。そしていかに最初の方、灰田さんあたりが苦労なさったか、よく分かりました。

そこでやはり会長、幹事、各委員長を中心に全員が協力してことに当って行く方法を取らなければならないと思うんです。

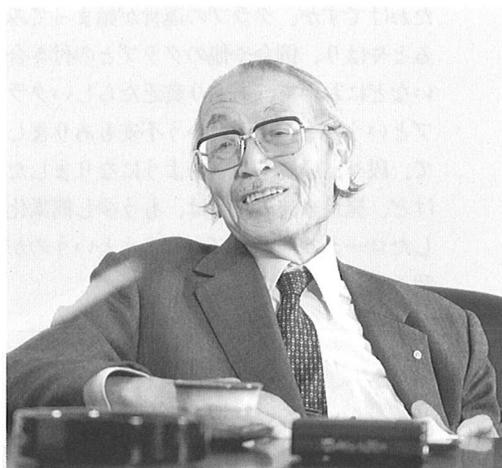
会費が安いし簡素化されているが、ロータリークラブ精神も簡素化するという訳には参りません。質素な運営をやっても、心の中まで貧しくなるといけないと思うのです。それだけは皆で啓蒙しながら、ロータリークラブ精神は高く持ち続けていきたいと思えます。

チャーターナイトの頃

司会 いろいろないきさつがあって、手づくりのクラブとして、当クラブが生まれた訳ですけど、チャーターナイトの頃の思い出話を一つ…。創設期の頃、卓話に演歌が登場するなど、場違いの人が来て戸惑いましたね。

全員 そうそう、中洲のママさんなんかが登場して…。

新家 今から考えるとねえ、チャーターメンバーが多すぎたのかもしれない。



平野 実際は72名いたのですが、一応50名におさえた。

新家 それかね、私は後で考えたんだが、チャーターメンバーはやはり30名位にとどめておくべきじゃなかったかと。そうしないと新しい人の比率が多くなり過ぎて、うまく行かない。

だから今の演歌問題にしても、卓話者を連れてきた会員は、それが当然だと思っていたのかもしれない。

平野 創立の時の会員の平均年齢は、49.6才ですよ。あれから10年経ちましたから、平均年齢は59才…。

前田 いや、54才です、まだ…。まだまだ、若い。私達のクラブも年齢にギャップができてましてねえ。今後会の運営が大変じゃないかと思うんです。

平野 古い会員が辞めるとき、僕はその理由を聞いたんですが、その方は、我々の年代には話し相手が少ないというんですね。

前田 私もその方から、同じことを言われました。そして、でも若い人が忙しくやっているからしょうがないなあと、おっしゃっていました。

平野 うちのクラブも、古い人達が若い人達をうまく指導して行かないとね。若い人達は若い人達でロータリークラブってこういうものだと思っていらっしゃるだろうから。

司会 いろいろご注文もありがたかと思いますが、大塚さん、チャーターナイトの思い出を…。

大塚 チャーターナイトの思い出としては、何分新しい経験のないメンバーがそれぞれ目一杯の役割分担をしてやったんですが、レセプションが終わった時は本当にほっとしました。やはり平野先生の采配が非常によかったと思います。

会場が二つに分かれましたので、雨が降ったらどうしようかという心配もありましたが、アトラクションの天本さんの話が、スペインの話題を先取りしたような感じでよかったです。

全員 そうそう、あれは良かった。凄かった。

前田 あの方は平野先生の知り合いですか？

平野 私の高等学校の後輩になります。

灰田 私はあの時まで、天本さんを全然知らなかったのです。でも若松出身ということを知り、私も若松に住んでいたことがあるものだから、特に親しみを覚えました。

前田 大塚さんはあのチャーターナイトの時、登録、接待、広報委員長でしたね。

大塚 はい。受付とか案内とかいろいろやりましたが、こんな思い出もあります。私が引き出物を用意したのですが、会が始まると手元にすっかりなくなってしまいましたね。ところが、不足はしなかったのです。

全員 ほう！

大塚 つまり、数はびたりだったんですよ。まさに作ったような偶然だったのですね。

歩み始めて…

司会 大塚さんが会長なさった頃の思い出は？

大塚 新家さんや平野先生に立派な子どもをお産み頂いているものですから、そういう子どもを育てていくということについて、お役に立てなかったのではないかと反省しています。

クラブが産まれ落ちてから開発期と有閑期があると思うんですけど、有閑期を担当す



る会長は会社の管理と同じく、何か新芽を出そうと思って一生懸命やるわけですが、そういった面で私どもの時代は、宮崎幹事が機関車のように活動的で、いろんな案を出してくれました。

まず、アッセンブリーとか、クラブフォーラムの回数を非常に多くした時期じゃなかったかと思います。話し合いを活性化しようとはかった訳です。

親睦については、原鶴まで夜間の遠出を致しまして、これについてはいろいろなりアクションがありましたけれども、いろいろ新芽を出そうと努力したわけです。

記憶に残っているのは第14回のシニア隊の発団式に行って非常に感激したことでした。

また、出席率が98.98パーセントになり、第7位の表彰を地区大会で受け、その頃からクラブの出席率が上がって来たということもございました。

いずれにせよ私が会長させていただいたころの環境は、福岡市でもアジア太平洋博覧会が行われるなど、非常によい時代で、日本が生活大国として本当の豊かさを求めるものを追い求めた時期でした。

ロータリークラブはアメリカ型の組織ですから、トップヘビーなリーダーシップを発揮しなきゃいかんところなんです。しかし、それになかなかお応えしていくことがなかつ

たという反省をしておりますが、貴重な体験をさせて頂いたことに感謝しております。

北クラブの会費は本当に安いのか

新家 何かあるクラブでシニアの人から、「北クラブが一番安い会費でやっているというが、本当が一番高いですね」といわれたことがある。一番安いつもりでいたら、一番高いんですね。

平野 そう、あまり安くはないですよ。

前田 私、調べました。ある時、中央ロータリークラブの会長さんが、「前田さん。昔はあなたのところの会費が一番安かったが、今は高くなったねえ」という訳です。それで僕、すぐ調べたんですよ。そしたらね、年会費が20万円を切ったクラブがいくつかありました。

福岡クラブが19万円。西クラブが18万4千



円。中央クラブは19万2千円。太宰府クラブが18万7千円。宗像クラブが18万円。あとは20万円か21万円ぐらいなんです。

わが北クラブは20万円だから、中央クラブから見れば高いですよ。

西クラブなどは会員も、百何十人もいますよ。どうしても会員が少ないところは高くなるわけです。

私は事務局の井上さんと一緒に、何故うちが20万円になったかを調べまして、段々分かってきたことは、ポリオプラスのキャンペーン中に9千円の会費を上積みしてそれがそのまま残っている。

平野 ポリオプラスの期間が終わっても取ってたの？

前田 取ってたんです。だから明らかに高くなっていたんです。だからうまくやれば18万円台になる。

平野 ポリオプラスの金はどこへ入っていた訳？

前田 全部、預金で残っているんですよ。

平野 募金の期間が終わっても取ったんじゃないかかんよ。(笑)

前田 そこで今度、会費は18万4千円にすることにしました。そういう訳で、つましくやるべきはずのクラブが実はそのあたりで、尻抜けになっていたというわけです。ここで一応、線は元へ戻したと思っています。だからこれからは、決して高いクラブじゃございません。

平野 しかし、そのように預金ができたとということになると、委員会を作って金を活用するように考えていかなきゃいかんですね。

幹事経験者からの発言

司会 田中さんが会長をなさっていた時期の幹事が灰田さんですが、何か幹事として…。

灰田 クラブの中でもう少し、皆さんが同じテーブルについて打ち解けて話し合って欲しいという気がしますね。

ある例会の後、見知らぬビジターの方がおっしゃるには、「あなたのところは例会中に私語が多いな」と。そして、「あの人とあの人の人だ」と名指しで言われるのです。

また、テーブル会にも感じるがあります。例えば一つのテーブルだけでは5～6人程度ですから欠席者があれば成立しにくいので、2～3テーブル一緒にやるといいと思うのです。



北クラブ・ 思い出の人達

平野 ここで申し上げたいことがあります。亡くなられた第4代の田中会長が、福岡北ロータリークラブをつくる時非常に努力してくださったことです。あの方は久留米のクラブにおられたのですが、福岡に仕事の本拠地があるんだから福岡のクラブにお入んなさいと勧めたわけです。すると本当に一生懸命、当クラブ設立の仕事をやって下さいました。

あの方も生きていたら10周年が来るって喜んでしょうけれども。

話は変わりますが、福岡北ロータリークラブを作ろうという時、中牟田さんに「岩田屋から一人必ず出して下さい」と言いましたら、即座に「おります。大塚です」と言われましたね。

前田 大塚さん、よく勉強しておられますね。

大塚 いいえ、勉強しなければならないポストにつけて頂くもんですから…。(笑)

前田 ポストについてもなかなかそこまで勉強できませんでね。

新家 やっぱり、紹介する人が大事だね。

前田 でも、だんだん世の中が変わるから、新しい人が見つからなくなりますね。

司会 他に退会された方や物故された方で思い出の方はありませんか。

前田 ここに鶴谷さんがおられたでしょう。伊藤忠の…。ゴルフは強いし、酒はよく飲むし。私みたいに頭が禿げて、元気のいい人だったけれども。

平野 うーん、惜しい人だったなあ。

前田 人混みの中でもあそこにいるというのがすぐ分かるもん。

平野 増田さんも惜しかったですねえ。あの人も真面目な人だった。

前田 それから画家の方がいたでしょう。絵を1枚描けば中洲で一杯飲めるんだっていつてた。

またそのテーブル会につきましても、出席の約束をしておきながら来ないという人もいまして支払の際に出席者の負担が大きくなったりする。

前田 だから、最近テーブル会はあまりやらなくなったですねえ。

司会 上田さんは何か？

上田 私、まだ40代の人間ですが、うちのクラブには新家パスタガバナーとか、平野特別代表とかロータリークラブの生き字引のような方がいらっしゃるものですから、大きなギャップを感じました。とてもあそこまでは及びもつかんという感じと、現状はこれでいいのかなあという気持ちの葛藤でした。

灰田 話は変わりますが、今、事務局にファックスが入っているでしょう。会員の方にもファックスがあるし、連絡の仕事が本当に楽になりました。

私が幹事の頃、書類送って下さいって言ったら、取りに來いなんて言われてね。遠い所まで取りに行ったことがありますよ。また、西鉄グランドホテルのなかにいくつかロータリークラブの事務所がありますね。あそこは車を置く場所がないもので、書類のやりとりで本当に困りました。今はファックスでやりとりできるんですからね。

前田 時代の流れですなあ。

上田 私、飲ましてもらったことがあります。
前田 あるある。(笑い)
平野 あの人だ。卓話に中洲の女性連れて来て、歌わせたりして。
前田 あれはもうほんとに困ったですねえ。
上田 卓話者を探すために自分は酒を飲んでいるんだとおっしゃっていました。
前田 それは方便だなあ。
上田 常盤さんはお元気でしょうか？
平野 一時、入院されたけど、今はお元気でいられるんじゃない。

クラブ運営の問題点

司会 お話も随分進みましたが、クラブ運営について反省点やこれらの課題などお聞かせ下さい。
上田 以前ライラに参加したとき、数人の方が一緒に参加して下さったことは今でも嬉しく



記憶しています。ロータリークラブというのは皆が参加しないとできないんだなあと当り前のことを痛感しました。

大塚 皆でやるということが一番大切じゃないかと思えますね。私は21世紀まで生きていかどうか分かりませんが、21世紀が生き甲斐の時代だとすれば、ロータリークラブの発想というのは、まさに生き甲斐に対応し

た組織みたいな気がするんですね。ロータリークラブが面白い、楽しいというだけの判断じゃなくて、皆で世の中のお役に立つというのが大きな生き甲斐でしょうから、それをみんなでやって行くことが充実感があるような気がします。

平野 新家さん、あなたは最近黙っておられるが、今日ははっきりと福岡北ロータリークラブはどうあって欲しいか話しておかんですか。昔は新家さん、ロータリークラブのこと一生懸命話しておられたけど、今、黙っておられるところをみると、もう北ロータリークラブに絶望しているのではないかと…。
新家 半分はそうだよ。それとやっぱり、年齢的にも遠慮して。
平野 そんなことだったら、段々歳とるですよ。もう少し言うべきことを言わんと駄目ですよ。
新家 寝ているわけじゃないけどね。こっちの言うことはもうムリじゃないかと思う。
平野 流れが変わったですかね。私は新家さんとずーっと一緒にいますがね。アイアム・ア・ロータリーみたいな人が黙って来だすと心配です。
前田 僕らもそう思います。次元が低い人達に今更怒っても…と思っておられるんじゃないかと、僕も勉強せんけど、会長報告になんぼ書いたって一つもムードが盛り上がって来ない。
夜間例会やったって、出席率が60数パーセントあればいいほうでしょう。しかも時間が厳しいはずのロータリーアンが30分や1時間も遅れてやってくる。
平野 僕は思いますけどね、昔のロータリーというのはクラブの中に恐ろしい人がいたのですね。我々は今、歳をとりましたが恐れられていないものね。今は、恐い存在の人がいなくなっちゃった。
大塚 会社でも恐い存在がなくなりましたからね。
前田 例えばSAA自体が強さの象徴でなくなっちゃったでしょ。

僕が入った時などは、SAAが一番強いんだと、軍隊で言えば軍曹なんだと教えられました。今入会してくる人なんかは、SAAの強さなんか感じていないんじゃないですか。そういうところが、新家さんなどには次元が低く見えるのだろうな。

現在、SAAが会場管理するのに強さでやるなんてことはまずありえない。

灰田 そんなことしてたら嫌われるんじゃないですか。

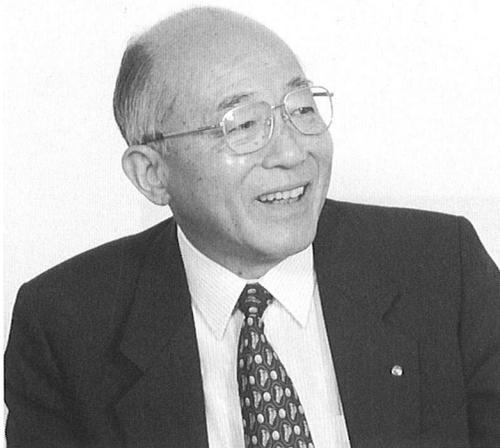
平野 いや、嫌われんといかんのじゃないですか。

前田 SAAは嫌われ役なんだから。世界大会にいくと、SAAがホテルの部屋まで来て、欠席しないようにやかましく言う。それ程、権威のあるのがSAAです。

新家 それから、ロータリークラブの活動はまずテリトリーが最初なんです。自分のテリトリーの中で社会奉仕をする。それが今はばやけているでしょう。

平野 地域と密着していませんね。しかし、このロータリークラブも、まだどんどん変わって行くでしょうね。

新家 今までもずうっと変わってきた。



北クラブの これから

司会 それでは予定の時間も参りましたので、特別代表にしめくりを。

平野 今も申し上げましたように、時代の流れだからしょうがないが、創設して10年経ちましたから、いろんなことを原点にもどして考え直して欲しいです。そしてできればロータリー精神だけはどこかで引き継いで欲しい。

ロータリークラブが烏合の衆になって、単なる親睦会になったんじゃない、時間が無駄だという感じがします。

歳をとった連中も少し努力せんといかんでしょうね。

前田 私は良いことならどしどし発言すべきだと思っています。やっぱり、ロータリーの精神の勉強会をやるぐらいのことを考えないと駄目でしょうね。

平野 話は変わりますが、新入会員が入ったときの宣誓式をやめたのは何故ですか。

前田 それがいろいろ意見がありまして。よそのクラブではやっていない。わがクラブもあそこまでやらなくてもなどと言う意見がありました。

平野 でもあれは、ロータリーの手続要覧に書いてありまして、それを北クラブでやり出したわけです。僕はいいことだと思ったんですかね。決して恥ずかしいことではない。ある程度、形式ばったことをやっても良いと思うんですけどね。

新家さんの意見は？

新家 手続要覧には「新会員のクラブへの入会式を厳粛に行う手続きは、各クラブが自クラブに合わせて考案しなければならない」と明記してある。はっきり、「入会式」と書いてある。

だから、それを言っただけで、いやならいやでいいから理事会で決めてやりなさい。やる、やらないまで干渉しないからねと言

ったんです。

ただね、他のクラブがやってないからやらんというのは理由にならんよ。そんなこと言うべきではないよ。

平野 そんなところから形式が崩れていきますからねえ。

新家 ロータリーはクラブの独立性を尊重する。一番大切なことです。

平野 まあ、いろいろ問題もありましょうが、時々、こういうふうにして語り合うというのはいいことです。若い人はできるだけ簡略化していこうと言う風潮がありますからね。

新家 僕は新会員も、入会のときには定款細則に対して関心を持たなくてはいかんと思えますね。定款細則を知らないではすまされない。それは許されないと書いてあるんだから。

大塚 新入会員に対するオリエンテーションを新家さんから引き継いで、ロータリー情報を使ってやっているんですけど、最近の入会者は皆さん、理解して頂けますね。私がお目にかかった方はきちんとしてるなあと思いました。

平野 私が入会した時は家内まで呼び付けられま

してね。1時間ぐらいオリエンテーションをやられましたねえ。やかましい人がおったよ。

会長は今の会員の人数についてはどのような考えを？

前田 今度、会員数の消長を調べてみたんですが、大体66~72人なんですね。そこで最小70人は確保したいと思っています。

だから70より減にならないようにしたいと思うんです。一時66名になりましたからね。なかなか70を1年間維持することは難しいようです。

そこで会員増強ということになるんですが、会員増強を叫ぶばかりでは仕方ない。やはり動いて頂かなければいけないことで、みんなでやらなければいけません。

司会 終わりになって核心に触れたお話が出て参りましたが、北クラブのさらなる発展を皆様方をお願いして、今日の座談会を終わらせて頂きたいと思えます。今日はどうも有難うございました。

〈終わり〉



福岡北R.C.の事業とあゆみ

当クラブの発足

創立	1983年6月3日
承認	1983年6月22日
認証状伝達式	1983年11月5日
創立時RI会長	向笠広次
創立時ガバナー	中牟田喜一郎
特別代表	平野桂樹
スポンサークラブ	福岡城西RC
チャーターメンバー	50名
現在会員数	63名
	(93年6月現在)



歴代会長

常盤 稔	(1983-1984)
木曾 信重	(1984-1985)
新家 忠男	(1985-1986)
田中 義明(故人)	(1986-1987)
平野 桂樹(故人)	(1987-1988)
溝部 浩三	(1988-1989)
大塚 嘉博	(1989-1990)
本田 恵	(1990-1991)
荒木 勉	(1991-1992)
前田 三男(故人)	(1992- 没)
葉山 孝	(1992-1993)

歴代幹事

若狭 信之	(1983-1984)
上田 謙太郎	(1984-1985)
平野 桂樹	(1985-1986)
灰田 洋一	(1986-1987)
若狭 信之	(1987-1988)
篠崎 勝信	(1988-1989)
宮崎 和人	(1989-1990)
重松 勝	(1990-1991)
中野 正彬	(1991-1992)
高尾 勝	(1992-1993)

会員の推移

年 度	S58	59	60	61	62	63	H元	2	3	4	
会 員 数	50	72	71	72	69	69	68	68	68	66	
入 会	1	26	8	10	5	9	4	5	8	6	(82)
退 会	1	4	9	9	8	9	5	5	8	5	(63)

主な足跡

- ボーイスカウト福岡第14団設立提唱支援
昭和59年、福岡北ロータリークラブ設立後、当クラブの青少年奉仕活動の一環としてボーイスカウト団を設立。故平野特別代表、本田恵育成会長のよき指導のもとに、ボーイスカウト第14団は充実した10年間を経過した。
- フランス共和国ボルドー北R、Cと姉妹提携
福岡市とフランスのワインの名産地ボルドー市が姉妹都市提携の縁もあり、第2代木曾信重会長が渡仏し、ボルドー北ロータリークラブと姉妹クラブ提携を結んだ。その後、交流の記念としてボルドーワインのコルク栓が送られて来たのは、ユーモラスな思い出となった。
- 福岡お便りの会支援
福岡市を中心としたお年より同士のシルバーボランティア組織「お便りの会」(約500人)支援のため特別賛助会員として金一封を寄金しているもの。1983年、クラブ発足の年から実施した。
尚、同会は今年で発足18年目になる。
- クラブ創立5周年記念「晴雨計」
当、北クラブ発足の5周年記念事業として、ひろく一般市民に役立ってもらうために、例会場であるセントラルホテル前歩道に「晴雨計」を設置し寄贈したもの。

ホスト、コ・ホストの記録

- ホスト ICF 1987.11.22
RYLA 1989.4.1
- コ・ホスト RYLA 1984.5.4
ICF 1988.11.20

その他

- ポリオプラス活動への貢献
平野桂樹会員が2700地区委員長として五期連続就任。

米山奨学生

- ・朴 鉉諄 (韓国)
九州大学農学部修士課程 醸酵化学専攻
新家忠男カウンセラー
指導教官 林田晋策教授
- ・鄭 兆宏 (台湾)
九州大学人文学部博士課程 国語学専攻
平野桂樹カウンセラー
指導教官 奥村三雄教授
- ・文 一智 (台湾)
九州大学工学部博士課程 建築設計学専攻
勝浦 勝カウンセラー
指導教官 竹下輝和教授
- ・車 炳玘 (韓国)
九州大学工学部大学院修士課程 情報工学専攻
三島計一カウンセラー
指導教官 岩間一雄教授

財団奨学生

- ・ジェーニファー A エイミックス (USA)
日本研究プログラム 九州大学法学部
1993.4月~1994.3月
カウンセラー 宮丸貞三

交換学生

- ・カルラ ミエ サクマ (ブラジル)
1988.2月~1989.10月
ホストファミリー 神代啓司 中村正義
- ・エリアーネ ミチコ ヤマサキ (ブラジル)
1989.1月~1990.1月
ホストファミリー 中野正彬 本田 恵
重松 勝
- ・マルセル イズミ サクマ (ブラジル)
1991.1月~1992.1月
ホストファミリー 神代啓司
- ・アナ パウラ ヨシカワ (ブラジル)
1992.8月~1993.7月
ホストファミリー 神代啓司 矢野羊祐
田代(城西) 北代(城南)

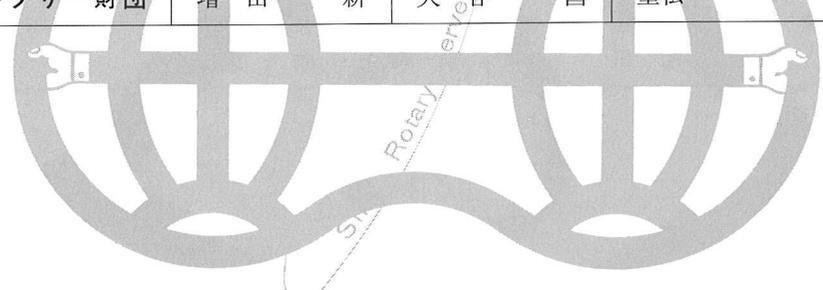
歴代役員

1983～1984年度

役員名	氏名
会長	常盤稔
副会長	木曾信重
幹事	若狭信之
副幹事	上田謙太郎
S A A	三浦博生
副S A A	野中秀幹
会計	宮崎和人
監査	有働博明
特別代表	平野桂樹

役員名	氏名
理事	常盤稔
〃	木曾信重
〃	溝部浩二
〃	田中義明
〃	八尋徳弥
〃	山本正敬
〃	山口泰
〃	大塚嘉博
〃	佐々木正

委員会	委員長	副委員長	委員(A B C順)
クラブ奉仕 A	山本正敬	馬場眷介	金山
出席活動	山本隆洋	神代啓司	池上、森本、中村、尾崎、穂吉
親睦活動	鶴谷松雄	荒木勉	
会員選考	福地裕一	矢野羊祐	宮崎
会員増強	佐々木正	佐知正道	
職業分類	香月隆	中西勇次	小山、渋谷
プログラム	江本軍四郎	重松勝(兼)	
ロータリーソング	野中秀幹		
クラブ奉仕 B	大塚嘉博	松岡弘則	緒方、平野(比)
雑誌・広報	中野正彬	香月隆(兼)	葉山、村上
クラブ会報	平山喜丈	岩崎明弘	前田
ロータリー情報	新家忠男	合志正臣	馬場(俊)、三島
職業奉仕	八尋徳弥	貫進	福泉、富永
社会奉仕	溝部浩三	小副川浩二	日隈、加茂
青少年奉仕	本田義明	山口泰	灰田、武元
国際奉仕	田中義明	大谷昌	重松
ロータリー財団	増田		



1984～1985年度

役員名	氏名	役員名	氏名
会長	木曾信重	理事	木曾信重
副会長	新家忠男	〃	平野桂樹
幹事	上田謙太郎	〃	大塚嘉博
副幹事	平野桂樹	〃	佐々木正
会計	後藤豊彦	〃	新家忠男
S A A	野中秀幹	〃	鶴谷松雄
副 S A A	灰田洋一	〃	八尋徳弥
〃	宮崎和人	〃	山口泰之
監査	有働博明	〃	若狭信之

委員会	委員長	副委員長	委員 (ABC順)
クラブ奉仕 A 出席活動	鶴谷松雄 江本軍四郎 神代啓司	重松勝 尾崎徹	吉田 稚吉、金山、森山、武藤、 山本(正)、三嶋(隆)
プログラム ロータリーソング	中西勇次 大橋章孝	渋谷哲夫 武元和博	貫、馬屋原、津久井、池上 山本(隆)
クラブ奉仕 B 会員選考 会員増強 職業分類	佐々木正 荒木勉 松岡弘則 香月隆	緒方役雄 亀崎重則 森本茂雄	三嶋(計)
クラブ奉仕 C 雑誌・広報 クラブ会報 ロータリー情報	山口泰 中野正彬 平山喜丈 溝部浩三	平野比左志 葉山孝 岩崎明弘	大谷、長府 村上、福地 山崎、常盤、田中
職業奉仕 社会奉仕	八尋徳弥 若狭信之	合志正臣 福泉喜久夫	中村、高瀬 川村、小山、佐知
青少年奉仕 国際奉仕	本田恵博 大塚嘉博	平野桂樹 馬場眷介	小副川、日隈、篠崎、馬場(俊)
ロータリー財団	増田耕	今永一	神宮司 前田

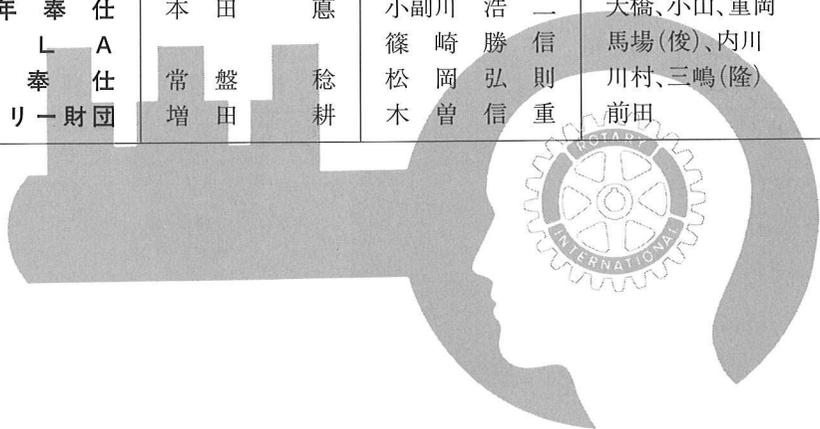


1985～1986年度

役員名	氏名
会長	新家忠男
副会長	田中義明
幹事	平野桂樹
副幹事	灰田洋一
会計	後藤豊彦
S A A	宮崎和人
副 S A A	森山武生
会計監査	有働博明

役員名	氏名
理事	新家忠男
〃	田中義明
〃	常盤稔
〃	平野桂樹
〃	鶴谷松雄
〃	後藤豊彦
〃	上田謙太郎
〃	若狭信之
〃	本田 恵

委員会	委員長	副委員長	委員 (ABC順)
クラブ奉仕 A 出席親睦活動	鶴谷松雄 重松勝之 村上泰之	池上邦俊 穂吉憲一	田中(敏) 光安、金山、山本(正)、森山、 有田
プログラム ロータリーソング	渋谷哲夫 武元和博	馬屋原 晟 平山喜丈	広瀬、山崎、馬場(眷) 神宮司、尾崎
クラブ奉仕 B 会員選考 会員増強 職業分類	後藤豊彦 緒方役雄 中西勇次 香月 隆	中野正彬 吉田 健 長府 国夫	大塚 神代
クラブ奉仕 C 雑誌・広報 クラブ会報 ロータリー情報 資料保存	田中義明 福泉喜久男 福葉山孝 溝部浩三 三島計一	平野比左志 福地祐一 岩崎明弘 西村淳暉	荒木 武藤、高瀬 石松、佐知 灰田
職業奉仕 社会奉仕 青少年奉仕	上田謙太郎 若狭信之 本田 恵	合志正臣 貫 進 小副川浩二	貞弘、渡辺 亀崎、森本、中村 大橋、小山、重岡
R Y L A 国際奉仕 ロータリー財団	常盤稔 増田 耕	篠崎勝信 松岡弘則 木曾 信重	馬場(俊)、内川 川村、三嶋(隆) 前田



1986～1987年度

役員名	氏名	役員名	氏名
会長	田中義明	理事	田中義明
副会長	平野桂樹	〃	平野桂樹
幹事	灰田洋一	〃	常盤稔
副幹事	若狭信之	〃	溝部浩三
会計	渡辺武彦	〃	上田謙太郎
S A A	森山武生	〃	本田 恵
副 S A A	宮崎和人	〃	増田 耕
会計監査	有働博明	〃	中西勇次
		〃	神代啓司

委員会	委員長	副委員長	委員(ABC順)
クラブ奉仕 A	神代啓司	田中敏男	大橋、合志
出席	池上邦俊	穂吉憲一	石松、有田、日隈
親睦	村上泰之	福泉喜久夫	山崎、広瀬、内川
プログラム	馬屋原 晟	高尾 勝	武元、手塚
ロータリーソング	神宮司卓士		
クラブ奉仕 B	常盤稔	中村正義	川村
会員選考	光安直樹	大塚嘉博	佐知
会員増強	吉田健隆	馬場 脊介	長府
職業分類	香月 隆三		
クラブ奉仕 C	溝部浩三	平山喜丈	
雑誌・広報	平野比左志	高瀬正三郎	山本、松岡
クラブ合報	武藤正	岩崎明弘	荒木、亀崎
ロータリー情報	新家忠男	西村淳暉	若狭
資料保存	三島計一	貞弘賢治	藤原、花田
職業奉仕	上田謙太郎	福地祐一	木曾、葉山
社会奉仕	中西勇次	小副川浩二	重岡、大曲、千葉
青少年奉仕	本田 恵	篠崎勝信	馬場(俊)
R Y L A		鶴谷松雄	森本、三嶋
国際奉仕	増田 耕	中野正彬	播本
ロータリー財団	前田三男		

1987~1988年度

役員名	氏名
会長	平野桂樹
副会長	溝部浩三
幹事	若狭信之
副幹事	篠崎勝信
会計	播本誠
副会計	
S A A	平山喜丈
副S A A	佐知正道
会計監査	有働博明

役員名	氏名
理事	平野桂樹
〃	溝部浩三
〃	増田耕
〃	中西勇次
〃	神代啓司
〃	亀崎重則
〃	宮崎和人
〃	大塚嘉博
〃	馬屋原晟

委員会	委員長	副委員長	委員(A B C順)
クラブ奉仕 A	馬屋原 晟		
出席親睦	高尾 勝	渡辺 武彦	
プログラム	光安直樹	内川 秀一	平野(比)貞弘、穉吉、芦田
ロータリーソング	長府国夫	広瀬 哲男	岩崎
クラブ奉仕 B	武元和博	福泉 喜久男	重岡
会員選考	大塚嘉博		
会員増強	前田三男	馬場 眷介	常盤
職業分類	川村正喜	木曾 信重	
クラブ奉仕 C	香月 隆	藤原 孫四郎	
雑誌・広報	中西勇次		三嶋(隆)
クラブ会報	福地 祐一	石松 順禧	有田、日隈、大曲
ロータリー情報	荒木 勉	千葉 勝彦	山本
資料保存	新家 忠男	灰田 洋一	
職業奉仕	武藤 正	松岡 弘則	
社会奉仕	増田 耕	上田 謙太郎	池上
青少年奉仕	亀崎 重則	森山 武生	森本
R Y L A	宮崎 和人	葉山 孝	手塚、小松、村上、成松
国際奉仕		小副川 浩二	千原、馬場(俊)、三島(計)
ロータリー財団	神代啓司	重松 勝	中村
米山奨学会	田中義明		
ポリオ・プラス	中野 正彬		
	本田 憲	山崎 晴一朗	

1988～1989年度

役員名	氏名
会長	溝部浩三
副会長	大塚嘉博
幹事	篠崎勝信
副幹事	宮崎和人
会計	播本誠
S A A	上田謙太郎
副 S A A	貞弘賢治
会計監査	有働博明

役員名	氏名
理事	溝部浩三
〃	大塚嘉博
〃	亀崎重則
〃	荒木勉
〃	馬屋原晟
〃	中野正彬
〃	武元和博
〃	若狭信之
〃	宮崎和人

委員会	委員長	副委員長	委員(A B C順)
クラブ奉仕 A	馬屋原 晟		
出席親プログラム	高尾直樹	渡辺武彦	藤原、小丸、山田、梶原
ロータリーソング	光安直樹	大曲美沙男	藤谷、森本、勝浦、楨山
クラブ奉仕 B	岩崎明弘	香月隆	手塚、松岡
会員選考	福泉喜久夫	村上泰之	服部、重岡
会員増強	武元和博		
職業分類	前田三男	日隈智昭	三嶋(隆)
クラブ奉仕 C	平山喜丈	木曾信重	
雑誌・広報	石松順禧	三島計一	
クラブ会報	若狭信之		武藤
ロータリー情報	中西勇次	福地祐一	間、有田、安部
資料保存	佐知正道	千葉勝彦	田中
職業奉仕	新家忠男	平野桂樹	
社会奉仕	川村正喜	平野比左志	
青少年奉仕	亀崎重則	葉山孝	森山
R Y L A	荒木勉	増田耕	芦田、長府、川下、中馬
国際奉仕	宮崎和人	灰田洋一	有吉、馬場、溝口
ロータリー財団		小副川浩二	神代
米山奨学会	中野正彬	中村正義	
ポリオプラス	広瀬哲夫	山本正敬	
	重松勝	穂吉憲一	
	本田 恵		

事務局 井上純子

1989～1990年度

役員名	氏名
会長	大塚嘉博
副会長	本田 憲
幹事	宮崎 和 人
副幹事	重松 勝
会計	渡辺 武彦
副会計	川下 武徳
S A A	貞弘 賢治
副S A A	手塚 裕一
合計監査	有働 博 明

理事	氏名
H.1.7～H.2.6	大塚嘉博 荒木 勉 中野正彬 武元 和博 若狭 信之
H.1.7～H.3.6	本田 憲 山喜 丈 崎明 弘 前田 三 男

委員会	委員長	副委員長	委員(A B C順)
クラブ奉仕 A	中野正彬	山田隆一	葉山、森山、久米
出席親睦	小丸富雄	森本茂雄	灰田、村上、矢野、石井
プログラム	藤谷繁樹	安部寿明	香月、佐知
ロータリーソング	穂吉 憲一	服部 功	高尾
クラブ奉仕 B	重岡太郎		
会員選考	武元 和博	中西勇次	広瀬
会員増強	木曾 信重	福地 祐一	
職業分類	川村正喜	三島 計一	武藤
クラブ奉仕 C	石松順禧		
雑誌・広報	若狭 信之	福泉喜久夫	
クラブ会報	溝口博義	勝浦 勝	榎山、上田、宮丸
ロータリー情報	間 秀郎	増田 耕	新家
資料保存	平野桂樹	梶原正成	
職業奉仕	三嶋隆夫	有田昭穂	
社会奉仕	前田三男	溝部浩三	
青少年奉仕	岩崎明弘	芦田拓二	篠崎、中馬
R Y L A	平山喜丈	馬場俊治	長府
国際奉仕	小副川浩二	中村正義	神代
ロータリー財団	荒木 勉	播本 誠	田中
米山奨学会	山本正敬	亀崎 重則	光安
ポリオプラス	平野比左志	藤原 孫四郎	
	馬屋原 晟		

事務局 井上純子

1990～1991年度

役員名	氏名	理事	氏名
会長	本田 憲	H.2.7～H.3.6	本田 憲
副会長	荒木 勉		平山 喜丈
幹事	重松 勝弘		岩崎 明弘
副幹事	中野 正彬		前田 三男
会計	川下 武徳	H.2.7～H.4.6	荒木 勉一
副会計	播本 誠		福地 祐一
S A A	手塚 裕一		平野 桂樹
副 S A A	藤谷 繁樹		石松 順禧
会計監査	有働 博明		中西 勇次

委員会	委員長	副委員長	委員(A B C順)
クラブ奉仕 A	平山 喜丈	馬場 俊治	間、岩瀬、久米
出席	山田 隆一	矢野 正彦	穂吉、江藤
親睦	森本 茂雄	中馬 健樹	灰田、重岡、上島
プログラム	有田 昭穂	光安 直樹	荒木(兼)、香月(兼)、辻
ロータリーソング	高尾 勝弘		
クラブ奉仕 B	岩崎 明弘	溝口 博義	武元
会員選考	亀崎 重則	貞弘 賢治	溝部
会員増強	神代 啓司	武藤 正	宮崎
職業分類	楨山 憲一		
クラブ奉仕 C	前田 三男	馬屋原 晟	
雑誌・広報	葉山 孝	宮丸 貞三	三島、小副川、上田
クラブ会報	勝浦 勝明	新家 忠男	大塚
ロータリー情報	田中 義成	長府 国夫	
資料保存	梶原 正次	平野 比左志	
職業奉仕	中西 勇樹	平野 武雄	木曾
社会奉仕	平野 桂樹	篠崎 勝信	久保田、村上
青少年奉仕	福地 祐一	小丸 富雄	石井
R Y L A	芦田 拓治	三嶋 隆夫	香月
国際奉仕	石松 順禧	渡辺 武彦	
ロータリー財団	中村 正義	川村 正喜	
米山奨学会	佐知 正道	若狭 信之	
ポリオプラス	藤原 孫四郎		

事務局 井上純子

1991～1992年度

役員名	氏名	理事	氏名
会長	荒木 勉	H.3.7～H.4.6	荒木 勉
副会長	前田 三男		福地 祐一
幹事	中野 正彬		平野 桂樹
副幹事	高尾 勝		石松 順禧
会計	八尋 四郎	H.3.7～H.5.6	中西 勇次
副会計	播本 誠		前田 三男
S A A	藤谷 繁樹		亀崎 重則
副 S A A	岩崎 明弘		香月 隆司
会計監査	有働 博明		神代 啓司

委員会	委員長	副委員長	委員 (A B C 順)
クラブ奉仕 A	中西 勇次	久米 一郎	荒牧、有田、森、中村智
出席	馬場 俊治	江藤 敏	穂吉、平野(比)
親睦	矢野 正彦	重岡 太郎	篠崎、玉川、上島
プログラム	灰田 洋一	平山 喜丈	勝浦、大塚(比)、辻
ロータリーソング	三島 計一		
クラブ奉仕 B	平野 桂樹	武元 和博	若狹
会員選考	溝口 博義	溝部 浩三	本田
会員増強	貞弘 賢治	宮崎 和人	藤原
職業分類	榎山 憲一		
クラブ奉仕 C	石松 順禧	中村 正義	
雑誌・広報	馬屋原 晟	小副川 浩二	葉山、光安、上田、春田
クラブ会報	宮丸 貞三	新家 忠男	
ロータリー情報	大塚 嘉博	長府 国夫	
資料保存	梶原 正成	森山 武生	重松
職業奉仕	福地 祐一	木曾 信重	三嶋
社会奉仕	亀崎 重則	久保田 通	村上
青少年奉仕	香月 隆司	石井 吉文	森本
R Y L A	小丸 富雄	田中 義明	長田、間、上村
国際奉仕	神代 啓司	山田 隆一	
ロータリー財団	渡辺 武彦	播本 誠	
米山奨学会	川村 正喜		

事務局 井上純子

1992～1993年度

役員名	氏名
会長	前田 三男
副会長	葉山 孝
幹事	高尾 勝
副幹事	小副川 浩二
会計	播本 誠
副会計	渡辺 武彦
S A A	岩崎 明弘
副 S A A	中野 正彬
会計監査	有働 博明

理事	氏名
H.4.7～H.5.6	前田 三男 亀崎 重則 香月 隆司
H.4.7～H.6.6	神代 啓司 葉山 孝穂 有田 昭穂 宮丸 貞三 篠崎 勝信 矢野 正彦

委員会	委員長	副委員長	委員 (ABC順)
クラブ奉仕 A	篠崎 勝信		<small>きざさわ</small> 間、鷺澤 中村(智) 久米、光安、山田 長田、重岡 藤原 辻 春田、久保田、大塚(弘) 溝口 平山 溝部 平野(桂)、矢野(羊)
出席親睦プログラム	宮崎 和人	梶原 正成	
ロータリーソング	江藤 敏	上島 勝	
クラブ奉仕 B	平野 比左志	勝浦 勝一	
会員選考	森本 茂雄	榎山 憲一	
会員増強	亀崎 重則	福地 祐一	
職業分類	中村 正義	上田 謙太郎	
クラブ奉仕 C	本田 恵一	森山 武生	
雑誌・広報	三島 計一		
クラブ会報	宮丸 貞三	荒牧 邦夫	
ロータリー情報	村上 泰之	玉川 久雄	
資料保存	村上 賢治	新家 忠男	
職業奉仕	貞弘 賢治	荒木 勉	
社会奉仕	大塚 嘉博	森 政孝	
青少年奉仕	長府 国夫	三嶋 隆夫	
R Y L A	有田 昭穂	藤谷 繁樹	
国際奉仕	矢野 正彦	石井 吉文	
ロータリー財団	香月 隆	木曾 信重	
米山奨学会	穂吉 憲一	中西 勇次	
	神代 啓司	重松 勝	
	渡辺 武彦		
	武元 和博		

※当年度中の93年2月、前田会長死去により、残余期間の会長に葉山副会長、副会長に有田理事が就任した。

事務局 井上 純子

卓話の歴史

	昭和58年 6月3日	創立総会		
	6月10日	新会員オリエンテーション		
	6月17日	〃		
	6月24日	〃		
第1回	7月1日	「ロータリーあれこれ」	浦田 正知	
第2回	8日	「世思三大奉仕団体について」	平野 桂樹	
第3回	15日	「R.I.及び地区の組織について」	新家 忠男	
第4回	22日	「ニコニコ箱について」	平野 桂樹	
第5回	29日	クラブ運営協議会		
第6回	8月5日	「新入社員増強について」	平野 桂樹	
第7回	12日	夜間例会		
第8回	19日	会員自己紹介 常盤稔、若狭信之		
第9回	26日	「ロータリー情報」	新家 忠男	
第10回	9月2日	「中洲からみた景気変動」 「薊」社長	大山 幸子	
第11回	9日	「はるかなるネパールの村へ」	新家 忠男	
第12回	16日	「近代の中国と福岡」		
		福岡日中友好協会々長	溝口 勇夫	
第13回	30日	「少年非行の現状と補導の実際」		
		福岡県警察本部少年課婦人補導員	重松 和子	
第14回	10月7日	「ロータリーの出席について」		
		三宅病院々長	三宅 重徳	
第15回	14日	「飛行機と計器」 全日空福岡空港支店長	村山 由造	
第16回	21日	「職業奉仕月間に因んで」		
		福岡城西R.C.職業奉仕委員長	高木 博見	
第17回	28日	「米山週間に因んで」		
		平野桂樹、福岡城西R.C.米山奨学生	黄 漢泉	
第18回	11月4日	認証状伝達式の打合せ		
第19回	11日	「そば あれこれ」 「ため勢」	田口 俊英	
第20回	18日	「ツボと健康」 サン・ファイヤ社長	宮原 よし子	
第21回	25日	「いのちの電話」		
		福岡文化ライオンズクラブ会長	玉井 正雄	
第22回	12月2日	「地元劇団について」		
		RKB毎日放送ディレクター	東 義人	
第23回	9日	ガバナー公式訪問		
第24回	16日	夜間例会		
第25回	23日	「黒田節異聞」		
		博多町人文化連盟事務局長	帯谷 瑛之介	
第26回	30日	年次総会		
第27回	昭和59年 1月6日	「題名の有る音楽会」		
		CBSソニー	苗村 弘道	
第28回	1月13日	「マラソンのこころ」		
		ウインザー、ボストンマラソン覇者	重松 森雄	
第29回	20日	「今年の景気の見通し」 福岡銀行調査部長	戸畑 良平	
第30回	27日	「民謡の源流をたずねて」		
		(株)岩田屋企画課	立石 二昭	
第31回	2月3日	「特攻出撃の前夜」 香蘭女子短大理事長	坂根 潔	
第32回	10日	「ファッション最前線」		
		天神町いとや常務	友延 明夫	
第33回	17日	「社会更生保護の実態」 梅光寮理事長	石橋 ユキ	
第34回	24日	「今年のあなたの運勢」 気学研究者	山下 真理恵	
第35回	3月2日	「福岡の若者と情報」		
		「シティふくおか」編集長	佐々木喜美代	
第36回	9日	「旅立ちの青春」 九州電力広報部次長	鎌田 勉貞	
第37回	16日	「ベルリンの町並みと人々」		
		福岡女学院高等学校 音楽科講師	柳川 玲子	
第38回	23日	「実用英語と学校英語」 福岡教育大学教授	池浦 貞彦	
第39回	30日	「歌は心で」 シャソン・モモのママ	麻川 桃代	
第40回	4月6日	「雑誌月間に因んで」		
		国際ロータリー第270地区会報・雑誌委員長	古川 吉嗣	

卓話の歴史

第41回	13日	「ボーイスカウトとは」 ボーイスカウト県連事務局長	鶴我 直
第42回	20日	クラブアッセンブリー	
第43回	27日	「最近の事件から」 毎日新聞総局社会部 県警キャップ	古川 忠
第44回	5月4日	「現代美術について」 天画廊社長	中村 和子
第45回	11日	「青少年の非行と環境」 福岡県婦人対策課長	五斗 美代子
第46回	18日	「ペットと人間のかかわりあい」 福岡県ペット商業組合理事長	池田 嘉成
第47回	25日	「カラオケ繁盛記」 スナックアモール	松田 啓子
第48回	6月1日	「ラグビーから思うこと」 前新日鉄釜石ラグビー監督	森 重隆
第49回	8日	「行政より見た福祉」 福岡市福祉部長	福島 忠
第50回	15日	「私の舞に対する想い」 呉服まえた社長	前田 誠子
第51回	22日	「今日の時点から見た沖縄作戦」 玉井企画社長	玉井 正雄
第52回	29日	クラブ協議会	
第53回	7月6日	新会長、幹事の挨拶及び役員紹介	
第54回	13日	「最近の医療情勢」 平野内科医院院長	平野 桂樹
第55回	20日	クラブアッセンブリー	
第56回	27日	「世界における日本の先端技術」 大和証券投資信託(株)福岡支店長	貫 進
第57回	8月3日	ガバナー公式訪問	
第58回	10日	「動脈硬化とコレステロール」 (財)福岡労働衛生研究所理事長	山崎 晴一郎
第59回	17日	「中洲雑感」 中洲通信編集長	藤堂 和子
第60回	24日	「伝えよう親父の心」	池上 邦俊
第61回	31日	映画「海の正倉院」	宗像大社 作成
第62回	9月7日	夜間例会	
第63回	14日	「不動産鑑定評価制度のあれこれ」 (財)日本不動産鑑定所 福岡支社長	太田 清見
第64回	21日	「青少年の特質とボーイスカウト運動」 日本ボーイスカウト舞鶴地区 副協議会長	石橋 国生
第65回	28日	「心身医学について」 九州大学医学部心療内科助教授	吾郷 晋浩
第66回	10月5日	「障害児と共に30年」 しいのみ学園園長	鼻地 三郎
第67回	12日	「米山月間にちなんで」 第270地区米山記念奨学会委員長	梶原 景親
第68回	19日	「漢方の話」 武元内科クリニック院長	武元 和博
第69回	26日	「QCサークルの基礎」 (株)平和電興社社長	八尋 徳弥
第70回	11月2日	「筑前琵琶の流れ」	中村 旭園
第71回	9日	「シンガポールに学ぶ」 九州大学大学院教育学研究科 教育心理学専攻博士課程	久木田 純
第72回	16日	「糖尿病の種々の問題について」 前国立福岡中央病院 副院長	弥永 龍琅
第73回	30日	「しょうちゅうについて」 光酒造(株) 技術顧問	田中 康
第74回	12月7日	「橋を渡れば中洲」 西日本新聞社記者	川上 弘文
第75回	14日	「身体とホルモンについて」 国立福岡中央病院 内科部長	吉住 孝之
第76回	21日	家族懇親クリスマスパーティー	
第77回	28日	年次総会	
第78回	昭和60年1月4日	会長新年挨拶	
第79回	1月11日	「今年の経済見通しについて」 福岡銀行調査部長	戸畑 良平

第80回	18日	「ビールス性肝炎について」 国立福岡中央病院 内科医長	戸田 武二
第81回	25日	「幼児教育の2つの流れ」 学校法人松栄学園理事長	品川 松江
第82回	31日	「ミミズ・ビフィズス菌と健康」	吉田 健
第83回	2月8日	「異文化間のコミュニケーション」 福岡米国領事館首席領事	リチャード・モーフォード
第84回	15日	「ストレス解消法」 和田研究所福岡教室 所長	西田 憲次 本田 恵
第85回	22日	「成人病とこども」	
第86回	3月1日	「放送珍プレー」 RKB毎日放送アナウンサー	隈部 崇之
第87回	8日	「高速道路 八代一人吉間の工事概要について」 日本道路公団 福岡建設局長	今村 浩三 岩崎 明弘
第88回	15日	「取締役の実任について」	
第89回	22日	「一生自分の歯で食べよう」 九州大学歯学部予防歯科学教室 教授	森岡 俊夫
第90回	29日	「ファッションと時代性」 岩田屋営業本部店舗開発プロジェクト担当	黒瀬 公一
第91回	4月5日	クラブアッセンブリー	
第92回	12日	クラブ・フォーラム	
第93回	19日	「真向法健康体操」 真向法教士	川野 秀基
第94回	26日	「読書について」 中野眼科医院院長	中野 正彬
第95回	5月10日	「天守閣のない名城・福岡城」 博多町人文化連盟事務局長	帯谷 瑛之介 石橋 周一
第96回	16日	「原子力について」 九州電力(株)副社長	
第97回	24日	「女性に好かれる話し方」 西日本コミュニケーションカレッジ代表	小山 睦子
第98回	31日	「肥満について」 九州医学部生理学教室教授	大村 裕
第99回	6月6日	「盲導犬について」 財団法人 福岡県盲導犬協会 専務理事	緒方 豊吉
第100回	6月14日	クラブ・アッセンブリー	
第101回	21日	「バレエにかける思い」 バレリーナ	森下 洋子
第102回	28日	会長挨拶	
第103回	7月5日	新会長・新幹事のあいさつ	
第104回	12日	「人生の秋（老人の精神障害について）」 太宰府病院 精神科	出口 哲也
第105回	19日	クラブアッセンブリー	
第106回	26日	「博多の伝説」 パート1 西日本新聞社文化部	江頭 光
第107回	8月2日	「これからの日米関係」 西日本新聞社論説委員	友田 浩
第108回	9日	「覚醒剤汚染」 福岡県警本部保安第1課 特捜班長	島 亨
第109回	16日	夜間例会	
第110回	23日	「昔筑豊、今ドイツ」～おいらはジブシー炭鉱夫 RKB毎日プロデューサー	上坪 隆
第111回	30日	「博多の伝説」 パート2 西日本新聞社文化部	江頭 光
第112回	9月6日	「心障害を背負って生きる子供達」 福岡市立こども病院副院長	本田 恵
第113回	13日	「対ガン協会の現状」 福岡県対ガン協会 予防課長	福光 ミチ子
第114回	20日	「老人病の予防～特に脳卒中の予防について」 今津赤十字病院 副院長	岡山 昌弘
第115回	27日	「我が国周辺の軍事情勢」 陸上自衛隊第四師団 副師団長一等陸佐	橋口 茂
第116回	10月4日	「幕末の福岡」 博多町人文化連盟	帯谷 瑛之介

卓話の歴史

第117回	11日	「福岡市の水問題」	福岡市水道局理事	平 信雄
第118回	18日	「日本での留学生活について」		黄 順姫
第119回	25日	クラブフォーラム		
第120回	11月1日	「外人の見た日本」		タッド・ピーターソン
第121回	8日	「資産の運用法」		貫 進
第122回	15日	ガバナー公式訪問		
第123回	22日	「太宰府の現在と将来への意義」		
第124回	29日	九州歴史資料館 学芸第二課主査	亀井 明德	
		「人間ドックについて」		
		福岡市医師会成人病センター院長	東 隆介	
第125回	12月6日	会員フリートーキング		
第126回	13日	「新しいフッ素樹脂について」		木曾 信重
第127回	20日	「昔むかしの小さなスクープ」		
		西日本新聞社社長	青木 秀	
第128回	27日	家族懇親忘年会		
第129回	昭和61年1月10日	会長新年挨拶、幹事新年挨拶		
第130回	1月17日	「風邪の話し」	九大第一内科講師	柏木 征三郎
第131回	24日	「モータースポーツあれこれ」		
		日産モータースポーツインターナショナル(株)社長		
			難波 靖治	
第132回	31日	「日本の住宅事情」		
		住宅都市整備公団九州支社 総務課長	嶋田 征次	
第133回	2月7日	フリートーキング		
第134回	14日	「ボランティア活動10年」	お便りの会 会長	富田 淑
			副会長	清水 さだ子
第135回	21日	夜間例会		
第136回	28日	「今後の経済見通し」	福岡銀行調査部長	秋山 喜文
第137回	3月7日	「フランスの家族教育」	BOVISSOU ELISABETH	
		(名誉会員 ジーン・マリー・ブーイス氏夫人)		
第138回	14日	「単身赴任」		鶴谷 松雄
第139回	28日	「遺言状」		馬場 眷介
第140回	4月4日	「遠の朝廷太宰府」		
		太宰府市教育委員、古都を守る会文化部長	森 弘子	
第141回	11日	「仏教と人生」		
		福岡県仏教連合会副会長、大円寺住職	波多野 聖雄	
第142回	18日	「高齢化の進展と年金制度」		西村 淳暉
第143回	25日	「フランスの三月の選挙」	FRANCE-CULTURE記者	
			JEAN-FABRICE LE QUINTREC	
第144回	5月2日	「環境と子供」		篠崎 勝信
第145回	9日	「2.26事件に参加して」		常盤 稔
第146回	16日	「福岡市美術館について」		
		福岡市美術館学芸課長	安永 幸一	
第147回	23日	「こうすればワインはおいしい」		
		レストラン暖家ソムリエ	河波 正彦	
第148回	30日	フリートーキング		
第149回	6月6日	「OAとその未来」		
		東芝情報機器(株)営業推進部長	高野 博昭	
第150回	13日	「空のまもり」		
		航空自衛隊西部航空警戒管制団司令 空将補	田中 憲明	
第151回	20日	「若宮八幡宮の三十六歌仙について」		
		福岡市美術館学芸員	中山 喜一朗	
第152回	27日	会長・幹事退任挨拶		
第153回	7月4日	新会長・新幹事のあいさつ		
第154回	11日	クラブフォーラム		
第155回	18日	「自治根源博多山笠」	町人文化連盟	帯谷 瑛之介
第156回	25日	「肥満について」		
		福岡大学医学部健康管理学 教授	井上 幹夫	
第157回	8月1日	「円高下の日本経済の行方」		
		西日本新聞社論説委員	中村 良三	

第158回	8日	「KBCオーガスタゴルフ放送うらばなし」 KBCアナウンス部副部長	松井 伸一 新家 忠男
第159回	15日	「炭鉱うらばなし」	
第160回	22日	「ストレスを克服する自動訓練法の指導」 日本心身医学協会 自律訓練法指導者	松岡 素子 香月 隆
第161回	29日	「ジス・イズ・日本語」	町人文化連盟
第162回	9月5日	「博多のしきたり」	帯谷 瑛之介
第163回	12日	夜間例会	
第164回	19日	「子供への道標」	篠崎 勝信
第165回	26日	「海の守り」 海上自衛隊佐世保教育隊司令 一等海佐	竹内 秀一
第166回	10月3日	クラブ協議会	
第167回	17日	ガバナー公式訪問	
第168回	24日	「職業奉仕月間にちなんで」 福岡RC	浦田 正知
第169回	31日	「米山月間にちなんで」 米山奨学生	朴 鉉諄
第170回	11月7日	「ロータリー財団月間に因んで」 西R.C.	安永 友儀
第171回	14日	「民謡ハイヤ節流れ」 日本郷土民謡協会 九州地区連合会理事長	西岡 錦謡
第172回	21日	「福岡市の博物館建設について」 福岡市教育委員会文化部 博物館建設準備室	田坂 大蔵 木山 恭一
第173回	28日	「歯の話・不正咬合について」	
第174回	12月5日	「すぐ役立つスピードメモ法」 全日本速記教育協会会長	中根 正雄
第175回	12日	次年度理事選挙他	
第176回	19日	家族忘年懇親会	
第177回	26日	「誤解される健康法と体力作り」	今村 英夫
第178回	昭和62年1月9日	フリートーキング	
第179回	1月16日	「今年の景気見通し」 福岡銀行取締役企画部長	播本 誠 帯谷 瑛之介
第180回	23日	「博多の味」 博多町人文化連盟	
第181回	30日	「心の健康と音楽」 CBSソニー専属講師	木本 勤
第182回	2月6日	「青少年問題と地域の役割」 福岡県地域福祉振興基金 常務理事	矢野 璃羅子 平野 桂樹
第183回	13日	「ポリオ・プラス計画」	
第184回	20日	夜間例会	
第185回	27日	「東南アジアから見た日本～経済面を中心として」 マラヤ大学文学部歴史科 ラジエンドラン教授	
第186回	3月6日	「川上音二郎と貞奴」 西日本新聞編集局文化部 編集委員	江頭 光
第187回	13日	「太宰府天満宮の歴史」 太宰府市教育委員会 古都を守る会文化部長	森 弘子
第188回	20日	「NTTの組織とサービスの現状について」	花田 常樹
第189回	27日	「在宅食事療法の現在」 CRCヘルス事業部係長	伊藤 茂典
第190回	4月3日	「ロータリー雑誌月間に因んで」 東南ロータリークラブ	浅山 浩三
第191回	10日	「九州の眼鏡橋」 TNC映像第一部次長	榊原 晃弘
第192回	17日	「アジア太平洋博覧会について」 太平洋博覧会企画課長	小川 三千男 能間 義弘
第193回	24日	「博多映画今昔」	
第194回	5月1日	「虫歯にならないハナシ」 福岡歯科大学 学長	萩原 義郷
第195回	8日	ロータリーソング練習	

卓話の歴史

第196回	15日	「韓国の教育制度」	福岡韓国教育院院長	洪 鐘 洛
第197回	22日	「川上音二郎と貞奴」(続)	西日本新聞編集局文化部 編集委員	江 頭 光
第198回	29日	「テレビCMに見る世相あれこれ」	博報堂九州支社 支社長代理	平 岡 豊
第199回	6月5日	「福岡市周辺の古代遺跡」	太宰府市教育委員 古都を守る会文化部長	森 弘 子
第200回	12日	「男のおしゃれ」	資生堂美容科主任	永 野 祐 子
第201回	19日	「韓国の族譜と風習」	福岡韓国教育院院長	洪 鐘 洛
第202回	26日	会長、幹事退任挨拶		
第203回	7月3日	新会長、新幹事挨拶		
第204回	10日	「元気のある街とは」	福岡通産局鉱山部石油課長	後 藤 完 一
第205回	17日	クラブアッセンブリー		
第206回	24日	「真言密教を現代にいかす」	南蔵院住職	林 覚 乗
第207回	31日	「コメ(米)問題にかく答える」	福岡県農業協同組合 中央会 農政常農部長	若 狭 植 人
第208回	8月7日	「海のスポーツ ヨットに生きる」	(株)とうじ社長	冬 至 哲 也
第209回	14日	「8月15日を迎えて一わが青春時代の満州を想う」	新家 忠 男	
第210回	21日	家族懇親会		
第211回	28日	「太宰府の起源と鬼門の話」	太宰府天満宮 権禰宣	味 酒 安 則
第212回	9月4日	「青少年育成に関して」	福岡県警防犯部少年課課長	碓 宏 之
第213回	11日	「名馬は常にあれど伯楽は常には…」 —PTA会長として感じたこと—	福岡城東ロータリークラブ	田 辺 皓 俊
第214回	18日	「ガン治療における最近の進歩」	福岡大学医学部第二外科助教授	神 代 龍 之 介
第215回	25日	クラブアッセンブリー		
第216回	10月2日	「職業奉仕月間に因んで」	福岡R.C.	浦 田 正 知
第217回	9日	クラブアッセンブリー		
第218回	16日	「米山月間に因んで」	福岡ロータリークラブ	松 田 順 吉
第219回	23日	ガバナー公式訪問		
第220回	30日	「PRビデオの制作のうらばなし」	(株)エイコム 常務取締役	藤 岡 勝
第221回	11月6日	「現代の文化摩擦」	九州大学留学生教育センター講師	鳥 井 裕 美 子
第222回	13日	「超伝導のはなし」	共同通信社 福岡支社長	奥 野 幹 雄
第223回	20日	「鄧小平とはどんな人か」	時事通信社 福岡支社長	志 村 規 矩 夫
第224回	27日	「アメリカの医療について」	米国ハーネマン大学医学部主任外科教授	松 元 輝 夫
第225回	12月4日	「現代詩あれこれ」	日本現代詩人会 会員	柴 田 基 典
第226回	11日	「留学生と国際交流」	米山留学生	鄭 兆 宏
第227回	18日	年次総会		
第228回	25日	家族懇親忘年会		
第229回	昭和63年1月8日	会長新年挨拶		
第230回	1月22日	「今年の景気見通し」	福岡銀行常務取締役企画本部長	播 本 誠

第231回	29日	「高松宮様秘話」	福岡市民ホール・サービス社長	佐世 勇
第232回	2月5日	「イ・イ戦争は今年終わるか」	テレビ西日本報道局業務推進役	稲坂 硬一
第233回	12日	「川柳を楽しむ」	福岡百科事典刊行事務局長	大場 重保
第234回	19日	「狂金時代」	西日本新聞社社会部デスク	指出 昭洋
第235回	26日	「世界理解月間に因んで」	財団留学生	竹田 彰子
第236回	3月4日	「韓国情勢と日韓関係」	駐福岡大韓民国総領事館 総領事	金 権 萬
第237回	3月11日	「ポリオ・プラス月間に因んで」		平野 桂樹
第238回	18日	「笑顔があれば」	笑顔共和国大統領	福田 純子
第239回	25日	「あるドキュメンタリー番組」	サガテレビ報道制作局長	久富 正美
第240回	4月1日	「自動車事故とその救済について」	西日本自家用自動車共済協同組合損害査定部長	生 沼 武雄
等241回	8回	「地価高騰のゆくえ」	不動産鑑定士	貞 弘 賢治
第242回	15日	「ロータリー雑誌月間にちなんで」		新家 忠男
第243回	22日	「プロ野球裏話し」	スポーツニッポン新聞社(株)編集委員	蒲 牟 田 勇
第244回	5月6日	「大いに笑い、大いに咲く」	西日本コミュニケーションカレッジ代表者	津 留 公 子
第245回	13日	「鴻臚館 パート1」	福岡市教育委員会埋蔵文化財主事	柳 沢 一 男
第246回	20日	「鴻臚館 パート2」	福岡市教育委員会埋蔵文化財課長	柳 沢 純 孝
第247回	27日	クラブアッセンブリー		
第248回	6月3日	「アジア太平洋子供会議イン フクオカ」	福岡青年会議所理事長	財 津 重 美
第249回	10日	「客船の話」	学校法人 福岡家政学園理事長	伊 東 椰 子
第250回	17日	「ソウル・オリンピックの展望」	共同通信社福岡支社運動部長	木 田 恒 晴
第251回	24日	会長幹事送別親睦会		
第252回	7月1日	新会長・幹事挨拶		
第253回	8日	「福岡市の展望について」	福岡市議会議長	山 崎 広 太 郎
第254回	15日	クラブアッセンブリー		
第255回	22日	「公証制度100年を記念して」	福岡公証人役場	松 村 利 智
第256回	29日	「消費者の最近の相談事例」	福岡市消費生活センター所長	三 浦 政 輝
第257回	8月5日	「長寿への食生活」	食生活コンサルタントアカデミー所長	大 関 静 枝
第258回	12日	「会員増強月間にちなんで」		
第259回	19日	「博多の怪談」	博多町人文化連盟	平 山 喜 丈 帯 谷 瑛 之 介
第260回	26日	「やさしい禅のはなし」	長得寺住職 曹洞宗九州管区教化センター主管	長 井 福 雄
第261回	9月2日	「スケート人生をふりかえって」	カルガリーオリンピック日本代表選手	鈴 木 弘 幸
第262回	9日	「ボーイスカウトの発祥について」	日本ボーイスカウト福岡第14団団長	箴 島 晋

卓話の歴史

第263回	16日	「青少年月間にちなんで」		宮崎 和人 森部 貴子
第264回	30日	「ロータリーソングの練習」	指導	
第265回	10月7日	「九州経済の可能性」	日本経済新聞社西部支社編集部次長	桐山 勝
第266回	14日	クラブアッセンブリー		
第267回	21日	「職業奉仕月間にちなんで」		亀崎 重則
第268回	28日	「米山月間にちなんで」		重松 勝
第269回	11月4日	「税制改革について」	福岡国税局総務部企画課課長	原 貞文
第270回	11日	ガバナー公式訪問		
第271回	18日	「GSEに参加して」		
第272回	25日	「博多人形と色気」	西鉄労務課研究課 博多人形師	原 洋 西頭 哲三郎
第273回	12月2日	「異業種交流のすすめ」	福岡ベンチャーシステム研究会事務局長	重正 孝
第274回	9日	「広告、CI戦略」	(株)スタジオログ代表取締役	田中 国俊
第275回	16日	「男もデキル女でありたい」	HRCタイムス編集長	稲田 節子
第276回	23日	「オイスカ国際協力について」	オイスカ西日本研修センター所長	富安 秀敏
第277回	30日	会長年末挨拶		
第278回	昭和64年1月6日	会長新年挨拶		
第279回	平成1年1月13日	「一年を520日使おう」	田の四箇共和国総領事	荒川 三千男
第280回	1月20日	クラブアッセンブリー		
第281回	27日	「高齢者ボランティアグループの道」	おたよりの会会長	富田 淑
第282回	2月3日	「私が感じた日本、そして留学生が望むこと」	九州大学留学生会長	バンナ・サハド
第283回	10日	「アジア太平洋博もうすぐ」	アジア太平洋博覧会協会事務局次長兼会場部長	古賀 龍次郎
第284回	17日	「九州と国際化」	前アメリカ総領事館領事	ステファニー・ウエストン
第285回	3月3日	「女の編集室の22年」	女性ジャーナル編集長	高松 恵美子
第286回	10日	「私はポリオ患者のポリオ知らず」		芳賀 喜子
第287回	17日	「ポリオプラス月間にちなんで」		本田 恵
第288回	24日	「消費税実施もうすぐ」	福岡国税局企画課長	原 貞文
第289回	31日	「1989年国際ロータリー規程審議会決定に関する報告」		新家 忠男 中野 正彬
第290回	4月7日	「目の老化について」		田中 康
第291回	14日	「酒の話あれこれ」	光酒造顧問	
第292回	21日	地区大会		
第293回	28日	「雑誌月間にちなんで」		中西 勇次
第294回	5月12日	「ハワイ太平洋のかなめ」	よかトピアハワイ館長	ロバート松田
第295回	19日	「吉野ヶ里遺跡の発掘をめぐって」	太宰府市教育委員会	森 弘子
第296回	26日	「現在のワープロ事情」	東芝九州支社OA機器部長 東芝九州支社インストラクター	森下 逸郎 矢野 理恵子

第297回	6月2日	「歯のはなし」 福岡歯科大学第一解剖学教室教授	三好 作一郎
第298回	9日	「オリンピック後のソウル」 韓国貿易館々長	李 学聖
第299回	16日	夜間懇親会	
第300回	23日	クラブアッセンブリー	
第301回	30日	会長・幹事退任挨拶	
第302回	7月7日	新会長・幹事挨拶	
第303回	14日	クラブアッセンブリー	
第304回	22日	夜間懇親会	
第305回	28日	「社会変動と農業・農村」 広島県立大学助教授	徳野 貞雄
第306回	8月4日	「会員増強及び拡大月間にちなんで」 木曾 信重、川村 正喜、石松 順禧	村島 邦俊
第307回	11日	「生かされる命」 直方市光明寺住職	
第308回	18日	「最近の航空情勢」 日本航空福岡支店主席支店長代理	斉藤 裕三
第309回	25日	クラブフォーラム	
第310回	9月1日	「福岡市の青少年育成活動状況について」	平山 喜丈
第311回	8日	「家庭・学校で語られていない青少年問題」 福岡市市民局青少年相談センター ヤングテレホンふくおか相談委員	花田 芳子
第312回	22日	「ビールもいろいろありまして」 サッポロビール(株)九州支社営業企画部	坂本 高志
第313回	29日	「第3分区代理に就任して」	下村 史
第314回	10月6日	「ポリオプラスキャンペーンの現状について」	平野 桂樹 松田 順吉
第315回	13日	「職業奉仕について」 福岡RC	
第316回	20日	「日華間の実務関係について」 亜東関係協会福岡事務所	何 鵬齡
第317回	27日	クラブアッセンブリー	
第318回	11月10日	「ロータリー財団について」	山本 正敬
第319回	17日	ガバナー公式訪問	
第320回	24日	「高校野球について」 福岡大学附属大濠高等学校	中野 正英 岩崎 明弘
第321回	12月1日	「社会奉仕について」	
第322回	8日	「三つの髻」 浄土真宗本願寺派光円寺住職	円日 成道
第323回	15日	「アジア太平洋子ども会議イン福岡を終えて」 福岡青年会議所副理事長	小林 専司
第324回	22日	忘年家族懇親会	
第325回	平成2年1月5日	会長新年挨拶	
第326回	1月12日	クラブアッセンブリー	
第327回	19日	「ロータリー理解推進月間にちなんで」	新家 忠男
第328回	26日	「動物性治学」 海の中道海洋生態科学館々長	森友 忠生
第329回	2月2日	「パキスタンと日本との国際関係」 元駐パ日本大使館勤務 ベルシヤン・ウェーブ・ギャラリー社長	H. A. ムガール
第330回	16日	「革命200周年フランス留学体験」 ロータリー財団奨学生	柳 光子
第331回	23日	夜間例会	
第332回	3月2日	「ロータリー栄光の時」	馬場 原晟
第333回	9日	「衆議院選挙を終って」 西日本新聞社論説委員	溝口 実

卓話の歴史

第334回	16日	クラブフォーラム			
第335回	23日	「ロータリーソング練習」	指導	森部	貴子
第336回	30日	「ホームビデオの現状」			
		九州ビクター(株)代表取締役社長		栗城	良
第337回	4月6日	「とびうめ国体の現状について」			
		国体事務局長		太田	清忠
第338回	13日	「エグセクティブの為のパーティーマナー」			
		(株)西日本マネキン取締役部長		秋月	衣利子
第339回	20日	「ロータリー雑誌月間にちなんで」			
				溝口	博義
第340回	27日	クラブアッセンブリー			
第341回	5月11日	「クラブ奉仕Aパート 一年を振り返って」			
		小丸 富雄、藤谷 繁樹、穂吉 憲一、		重岡	太郎
第342回	18日	「クラブ奉仕活動について」			
				中野	正彬
第343回	25日	「はなしにならない はのはなし」			
				佐知	正道
第344回	6月1日	「火野葦平資料室より」		鶴島	正男
第345回	8日	「ポリオ患者のポリオ知らず パート2 出会いいろいろ」		芳賀	喜子
第346回	15日	クラブアッセンブリー			
第347回	22日	夜間例会			
第348回	29日	会長・幹事退任挨拶			
第349回	7月6日	新会長・幹事挨拶			
第350回	13日	クラブアッセンブリー			
第351回	20日	「日本酒の級別廃止と今後の動向」			
			税理士	伊藤	貫一
第352回	27日	ガバナー公式訪問			
第353回	8月3日	「会員増強及び拡大月間にちなんで」			
				岩崎	明弘
第354回	10日	「最近における暴力団の動向とその対応について」			
		福岡県警察本部刑事部捜査第四課長		井上	憲男
第355回	17日	「おお〜い北海道裏話」			
		サッポロビール(株)九州支社営業企画部部長		秋山	哲夫
第356回	24日	前会長・幹事慰労会			
第357回	31日	「検察官の役割」			
		福岡検察庁 検事		吉瀬	信義
第358回	9月7日	「青少年の相談状況」			
		福岡市青少年センター		伊藤	良子
第359回	21日	「気まま世相診断」			
		毎日新聞社西部本社編集局経済部長		片山	健一
第360回	28日	お月見家族懇親会			
第361回	10月5日	「データ通信と私」		岩熊	良治
第362回	12日	「職業奉仕月間にちなんで」		新家	忠男
第363回	19日	「面白いアジア文化」			
			米山奨学生	黄	振球
第364回	26日	「相撲界の近況」			
		日本相撲協会 湊部屋親方		湊	広光
第365回	11月2日	「音のもつ不思議な力」			
		CBSソニーファミリークラブ		山本	健次
第366回	9日	「ロータリーソングの練習」	指導	森部	貴子
第367回	16日	「私のみた日本」			
		米山奨学生	ニコラ・モリス・アネタ		
第368回	30日	「ストレス社会を乗り切る健康作り」			
			医学博士	今村	英夫
第369回	12月7日	「腎バンクと腎移植」			
		福岡赤十字病院内科部長		藤見	惺
第370回	14日	「福岡市政について」			
		福岡市総務局企画部調査部副主幹		長尾	正俊

第371回	21日	忘年家族懇親会		
第372回	28日	クラブフォーラム		
第373回	平成3年1月11日	「年頭の挨拶」	荒木	勉
第374回	1月18日	クラブアッセンブリー		
第375回	25日	「不透明な経済事情」	播本	誠
第376回	2月1日	「国際都市づくりあれこれ」 (財)福岡国際交流協会専務理事	富澤	義敬
第377回	8日	「最近の裁判の状況」	矢野	正彦
第378回	15日	「今、キーワードは人」 麻生テンポラリーセンター(株)社長	麻生	太一
第379回	22日	クラブフォーラム		
第380回	3月1日	「梅と太宰府」	岡部	定一郎
第381回	8日	「ロータリーソング練習」	指導	森部
第382回	15日	クラブアッセンブリー		
第383回	22日	「ポリオプラス月間にちなんで」	平野	桂樹
第384回	29日	「ニュースを伝える立場から」 RKB毎日放送解説委員長	三善	英毅
第385回	4月5日	「雑誌王国の光と影」 西日本新聞社社長	青木	秀
第386回	12日	「障害者仲間と働く場作りに取り組んで」 光共同作業所事務局長	石橋	徳拓
第387回	19日	「これからの女性のあり方」 フィニッシング・スクール・ジャパン・インフィニニ校長	末石	陽出子
第388回	26日	「野鳥往来」	猪野	隆平
第389回	5月10日	自由懇談		
第390回	17日	「宇宙のなぞとUFOについて」 (財)福岡銀行サービス監査室	藤崎	和年
第391回	24日	「湾岸戦争の後始末・ペルシャ湾の掃海コンペ」	江藤	敏
第392回	31日	「右左、左左、右左、右両～プロ野球選手と左利き」	渡辺	武彦
第393回	6月7日	「制服から見た湾岸戦争」 陸上自衛隊第14師団副師団長陸将補	出口	猛
第394回	14日	クラブアッセンブリー		
第395回	21日	会長・幹事退任挨拶		
第396回	28日	「福岡市の廃棄物行政」 福岡市環境局局長	石橋	秀敏
第397回	7月5日	会長・幹事就任挨拶		
第398回	12日	クラブアッセンブリー		
第399回	19日	「どうなる金融緩和」 朝日新聞西部経済部長	三浦	昭彦
第400回	26日	ガバナー公式訪問		
第401回	8月2日	「会員増強について」	貞弘	憲治
第402回	9日	「ハ、ハ、ハの歯の話」	久保田	通
第403回	23日	「日本の庭」	森	政孝
第404回	30日	クラブフォーラム		
第405回	9月6日	「青少年活動月間にちなんで」	新家	忠男
第406回	13日	「知っている便利なNTTサービス」	荒牧	邦夫
第407回	20日	クラブフォーラム		
第408回	27日	「人の話(人口の問題を中心として)」	辻	和男
第409回	10月4日	お月見懇親会		
第410回	11日	「色の追求」	玉川	久雄
第411回	18日	「職業奉仕月間にちなんで」 福岡城西RC	境	豊作
第412回	25日	クラブアッセンブリー		
第413回	11月1日	「神秘的宇宙と異星人」 福岡銀行サービス監査室		

卓話の歴史

第414回	8日	「ロータリー財団月間にちなんで」	福岡東南R.C.	妹尾 隆一郎
第415回	15日	「株式相場の見通し」		上 畠 禮
第416回	22日	「学校集団検査について」		大塚 弘
第417回	29日	「新聞は生き残れるか」	毎日九州印刷センター	小林 二三良
第418回	12月6日	「社会奉仕について」		亀崎 重則
第419回	13日	「特許とネーミング」	松尾特許事務所 所長 辯理士	松尾 憲一郎
第420回	20日	忘年家族懇親会		
第421回	27日	クラブフォーラム		
第422回	平成4年1月10日	会長新年挨拶		
第423回	17日	クラブフォーラム		
第424回	24日	「ロータリー理解推進月間にちなんで」		大塚 嘉博
第425回	31日	「退会に当って」		上村 侃司
第426回	2月7日	「ロータリーソングの練習」	指導	森部 貴子
第427回	14日	「日米の景気動向について」	前田証券(株)営業企画部推進部課長代理	柿原 敏博
第428回	21日	「テレビあれこれ」		春田 雅孝
第429回	28日	「アメリカと日本の社会文化の違いについて」	交換学生	タッド リッチ
第430回	3月6日	「RYLAについて」	博多RC	藤 正治
第431回	13日	「フィンランドと日本」	幼稚園保母	檀山 友子
第432回	27日	夜間懇談会		
第433回	4月3日	「雑誌月間にちなんで」	福岡RC	松田 順吉
第434回	10日	「電気自動車」	九電総合研究所配電技術担当次長	前田 昌三
第435回	17日	「ネパールより帰って」	九州歯科大学助教授	中村 修一
第436回	24日	クラブフォーラム		
第437回	5月8日	「女性からみた理想の経営者像」	プロジェクト・オー・ディレクター	永松 満恵
第438回	15日	「福岡近郊ゴルフ場事情」	重松ゴルフ取締役	重松 通洋
第439回	22日	「外科医の哲学」	福岡城西RC	田代 豊一
第440回	29日	「今後の投資戦略」		上 畠 禮
第441回	6月5日	「博多の面白さ」	おいし画廊社長	尾石 光治
第442回	12日	クラブアッセンブリー		
第443回	19日	「山のよもやま話」	好日山荘社長	美濃井 芳夫
第444回	6月26日	会長・幹事退任挨拶		
第445回	7月3日	新会長・幹事就任挨拶		
第446回	10日	クラブアッセンブリー		
第447回	17日	「福岡ドームの話」	福岡ドームPRルーム室長	小西 啓一郎
第448回	24日	ガバナー公式訪問		
第449回	31日	夜間懇親会		
第450回	8月7日	「会員増強月間にちなんで」		本田 恵
第451回	21日	「台湾の農村整備計画について」	米山奨学生	文 一智
第452回	28日	「昨今のエネルギー事情と原子力」	九州原子力懇談会事務局長	森山 文彦
第453回	9月4日	クラブフォーラム	学研・能力開発センター	堤 治博
第454回	11日	「心の健康と音楽」	福岡城西RC	安西 豊治
第455回	18日	「青少年活動月間にちなんで」	福岡城西RC	安西 豊治
第456回	25日	「スチュワーデスよもやま話」	日本航空パーサー	船橋 直子

あとかき

6月の創立記念のイベントが終ってから発行まで、結局4ヶ月以上かかってしまいました。

思った通りと申しますか矢張り原稿のまとめ、チェックそして調査などに予想以上に手数と時間がかかりました。お蔭様でなんとか御覧の様にまとめることができました。

お祝いのお言葉を頂いた方々はもとより、何より会員諸兄の全面的な御協力に、心から御礼申し上げます。

委員会としては、半年ほど前から各委員分担しての情報収集、資料整理そして原稿書きでしたが、本当に御苦勞様でした。大変でしたが一方福岡北クラブ会員として、10年誌を残すという仕事に具体的に関わられたことの喜びもひとしおです。おそらくこの思いは全委員共通のものでしょう。出来上ってみるといろいろ不十分で気がかりな点もございますが、お許し下さい。おしまいに、秀巧社の皆さん、特に終始格段の御世話を頂いた営業担当の平田氏に深甚の謝意を捧げたいと思います。また、事務局の井上さんには、本当にお手数をかけました。ありがとうございました。

(宮丸記)

10周年記念誌委員会

宮丸	貞三	長府	國夫
香月	隆	藤谷	繁樹
間	直樹	梶原	正成

福岡北ロータリークラブ 10周年記念誌

平成5年10月8日発行

編集／福岡北ロータリークラブ創立10周年記念誌委員会

表紙デザイン／平山喜丈会員

発行／福岡北ロータリークラブ

印刷／秀巧社印刷株式会社

福岡北ロータリークラブ